

大学評価ワークショップ  
岡山県立大学プレゼンテーション資料（別冊）

会 場：岡山県立大学

実施日：平成28年2月8日（月）



## はじめに

本学は、平成5年、「人間尊重と福祉の増進」を建学理念として開学した。その後、平成19年に、独立行政法人化し、新たに「人間・社会・自然の関係性を重視して実学を創造し、社会に貢献する」を教育研究理念として設定し、自主的・意欲的な運営を行っている。

特に、本学は、深い教養、高い専門性及び豊かな人間性を備えた人材育成を目指して、平成25年から始まった第2期中期計画において、教養教育の充実、グローバル化、戦略的な地域貢献の推進の3つの運営方針を策定し、その具現化のため、本別冊資料集に示したように大学全体の取組ならびに学生が参加する取組を推進している。

以上の3つの運営方針を教育面において強力に推進するため、本学は組織改編をはじめ各種の制度改革を短期間に実施した。一例を挙げると、平成26年度後期に大学教育開発センター及び国際交流センターを新設し、3つの運営方針に沿って多面的に調査研究や教育の質の改善に向けた企画立案を専門的に行う教職協働の組織体制とした。平成27年度からは全学教育研究機構を共通教育部と改め、平成25年度より準備した新たな共通教育カリキュラムをスタートさせた。さらに社会連携を教育面において推進する手だてとしてCOC+事業を念頭においた取組を最重要課題とする地域連携推進センター、情報インフラやコンテンツの円滑な活用を推進する情報基盤活用推進センターならびに本学の弱点であった学外への情報提供を強化する広報メディア開発センターを新設した。

大学プレゼンテーションのうち、FD研修事業は、本学の構成員が今日の大学改革のトレンドを認識共有しスキルアップを図るための大学教育開発センター主催事業である。次に平成21年度からスタートした教育力向上支援事業では、運営方針に沿って全学共通の横断的な課題取組を新たに加えることとなった。さらに平成27年9月に採択なったCOC+事業の計画は、衆知のとおり地域貢献人材の育成と地域定着を目的としたものである。

学生プレゼンテーションでは、本学の専門分野におけるグローバル化についてその嚆矢となる海外スタディツアー体験や、政策提言が課されるユニークな総社市インターンシップ、さらには福祉の心を学ぶ体験としてのAMDA東北大震災復興ボランティア、ならびに地域の子育て支援を活動の一環とする保健福祉推進センター支援のチュッピー広場の活動が報告される。今後の課題はボランティア精神の涵養と学生の主体的活動支援である。

以上の何れもが、新たな取組あるいは既存の取組の新たな展開をみせる一方、緒に就いたばかりであり、その効果の検証やこれに基づく改善をまたねばならない。ご高覧いただき、ご支援を賜りたいところである。

平成28年1月

岡山県立大学長  
辻 英明

## 目次

<b>(1) 大学による取組みについて</b>	<b>5</b>
① 大学教育開発センター FD 研修事業について	6
② 岡山県立大学 教育力向上支援事業について	13
③ COC+「地域で学び地域で拓く'生き生きおかやま'人材育成事業」計画について	23
<b>(2) 学生による取組みについて</b>	<b>29</b>
① アデレード・スタディツアー（異文化圏における専門分野の学び）	30
② 総社市インターンシップ（地域の学びと提言活動）	33
③ AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア（福祉の心の学び1）	36
④ チュッピー広場（福祉の心の学び2）	39

## (1) 大学による取組みについて

### ① 大学教育開発センター FD 研修事業について

本学の全学的 FD 活動は平成 19 年度の法人化以来進めてきた「相互授業参観」及び「FD 研修会」で構成され、何れも年 2 回実施されたが、前者においては結果の活用が個別的で共有しにくい課題、後者においては授業法に特化したテーマ設定の狭隘さからくる課題があり、かつルーティン化の状態が続いていた。以上から、より幅広い視点により本学教育の改善を巡る調査研究と企画立案を担う大学教育開発センターを平成 26 年度後期に設置、今日の大学教育における諸課題やトレンドを取り込むべく FD 活動の活性化に向け準備した。このうち FD 研修事業について、センター 6 部会 (FD・教育評価・アドミッション・共通教育・学生支援・キャリア形成支援) の担当分野に関連する「FD(・SD) 研修会」「教育開発講座」「ワークショップ」を活発に企画実施している。

田内 雅規 (大学教育開発センター長)

### ② 岡山県立大学 教育力向上支援事業について

平成 21 年度に教員における教育の質の改善を目指すための競争的資金として教育力向上支援事業が創設された。平成 27 年度事業としては申請のあったもののうち 21 件が採択された。採択の方針としては全学的取組や学部学科横断的な取組を優先的に扱うこととしている。平成 26 年度までと異なる傾向として大学教育開発センターの部会発案事業として「キャリア形成支援を目的とする教育体制整備に関する調査研究」(キャリア形成支援部会)、「高校生のための大学授業開放」(アドミッション部会)等が加わっている。前者は OBOG を招聘し在学学生向けの講演及び交流を行う「県大吉備塾」の実施・評価へ具体化され、後者は今日的テーマである高大接続の取組として実施され、成果とともに課題抽出が進められている。また学科を越え専門分野における社会的ニーズをふまえ、学部生のキャリア形成に活かすべく取り組む「岡山県立大学に適合した保健・医療・福祉の多専門職連携教育プログラムの開発」(保健福祉学部)など、本学の特色を生かし連携的に取り組む事業が含まれている。

吉原 直彦 (学生部長) 山下 広美 (キャリア形成支援部会長) 高橋 吉孝 (アドミッション部会長) 中村 光 (保健福祉学部教授)

### ③ COC+「地域で学び地域で拓く'生き活きおかやま'人材育成事業」計画について

教育における戦略的地域貢献について、地<知>の拠点大学を目指す本学は、平成 27 年度文科省 COC+ 事業に申請し 9 月に採択を受けた。そこでは社会連携科目群 (共通教育科目) 及び幾つかの専門科目で構成される副専攻カリキュラム「岡山創生学」を設置、協定を締結する県内 4 市をはじめとする自治体に学外コモンズを設置し「地域協働演習」等の社会連携科目を展開することとしている。またキャリア教育の視点からは、地域産業界と連携し地域に根ざす人材の育成を期してマッチングシステムの共同開発に臨むほか、長期インターンシップの充実を図ることとしている。これらの教育事業を効果的に推進するため、本学は平成 29 年度よりクォーター制に移行すべく準備を進めている。

渡辺 富夫 (地域共同研究機構長 [COC+ 取組担当]) 佐藤 洋一郎 (地域連携推進センター長)

# ① 大学教育開発センター FD 研修事業について

①

## 大学教育開発センター FD 研修事業について

～岡山県立大学の教育改革と大学教育開発センター～

岡山県立大学・大学教育開発センター長  
田内雅規

平成28年2月8日大学評価ワークショップ

1

②

## 目次

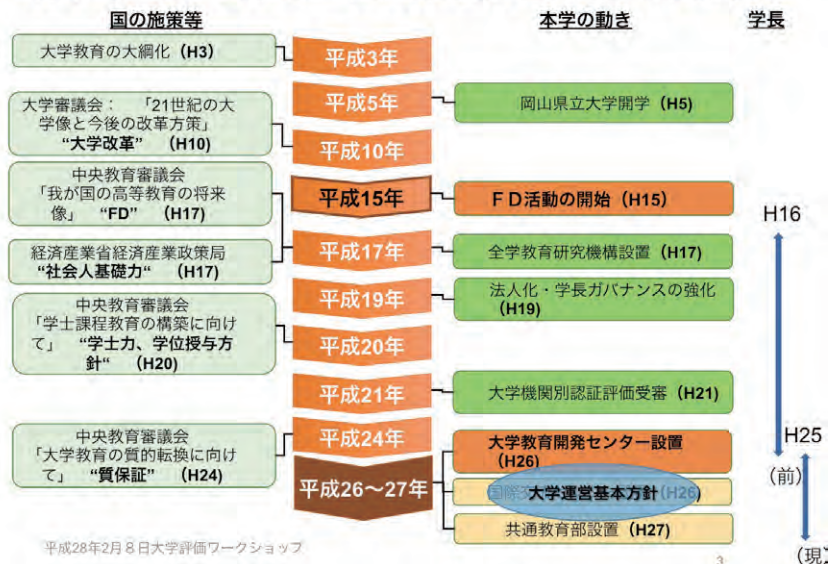
1. 本学のFD活動
2. 大学教育開発センターの設置
3. 大学教育開発センターの事業・活動の位置付け
4. 大学教育開発センターFD・SD研修事業
5. 今後の課題

平成28年2月8日大学評価ワークショップ

2

③

## 1.本学のFD活動：国の施策との時系列関係



3

④

## 1.本学のFD活動：今迄の取組状況

年度	事項
平成15年度～	①授業アンケート評価開始 卒業時アンケート開始
平成16年度～	教育年報発刊
平成18年度	キャップ (CAP) 制の導入による適正な学修時間の確保
平成19年度～	②相互授業参観の実施
平成20年度～	③FD研修会の実施
平成21年度～	教育力向上支援事業の実施
平成23年度	授業と試験時間の分離による単位の実質化
平成25年度～	3ポリシー (AP・DP・CP) の全学的整備 (定期見直し)
平成26年度～	大学教育開発センターの開設
	GPAを用いた成績評価の試行 (H27～実施)
	TOEICの全員受験
	共通教育改革の立案と実施

①②③ 本学のFD三本柱  
(～H25 委員会形式による企画・実施)

平成28年2月8日大学評価ワークショップ

4

⑤

## 1. 本学のFD活動：従来事業の評価

### 本学のFD三本柱

- ① 授業アンケート評価開始
- ② 相互授業参観の実施
- ③ FD研修会の実施

#### 課題

- ・ 委員会形式の実施体、教職協働体制が不完全である等の理由により、十分な検討や迅速な動きが取りにくい
- ・ FD各事業における『企画 (P) - 実施 (D) - 評価 - チェック・フィードバック (C) - 改善策の実施 (A)』の一貫した体制がとりにくい
- ・ 専従の教員・職員がいないため、各事業に関する知識、スキルの蓄積が起きにくく、教育改革実施における大学としての専門性向上が期待できない



専門部署  
設置の  
必要性

平成28年2月8日大学評価ワークショップ

5

⑥

## 2. 大学教育開発センターの設置：経緯

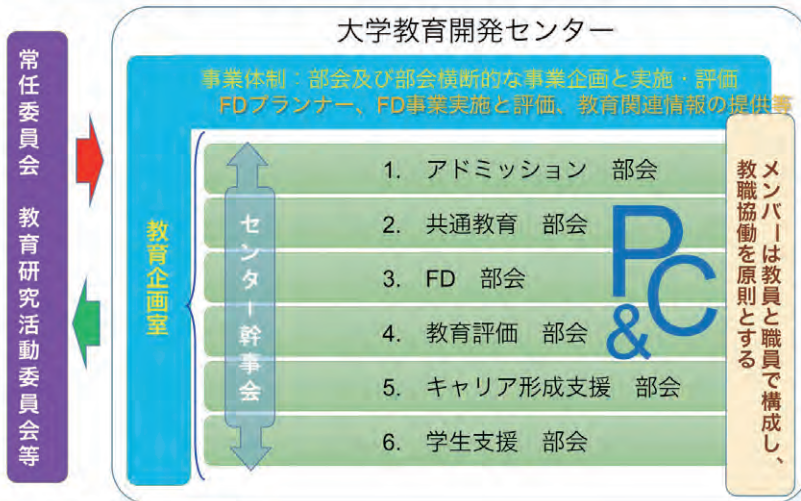
- ・ 平成26年 4月 大学教育開発センター準備室設置
- ・ 平成26年10月 大学教育開発センター発足  
センターに6部会を置く
- ・ 平成27年 4月 年度変更に合わせて、構成メンバーの充実を図る(推薦及び指名方式)
- ・ 平成27年 4月 教育研究推進機構の設置により、国際交流センター(H25.10)及び学術研究推進センター(H27.4)と共にその傘下となる

平成28年2月8日大学評価ワークショップ

6

⑦

## 2. 大学教育開発センターの設置：構成

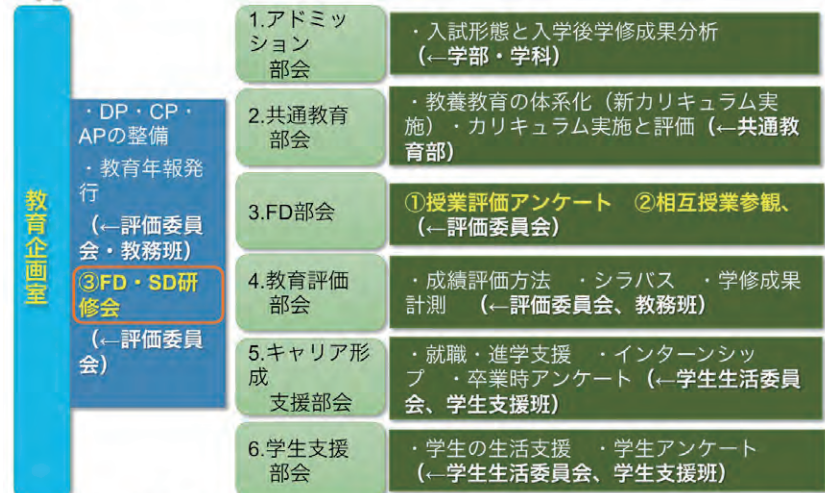


平成28年2月8日大学評価ワークショップ

7

⑧

## 2. 大学教育開発センターの設置：継承部分



平成28年2月8日大学評価ワークショップ

8

⑨

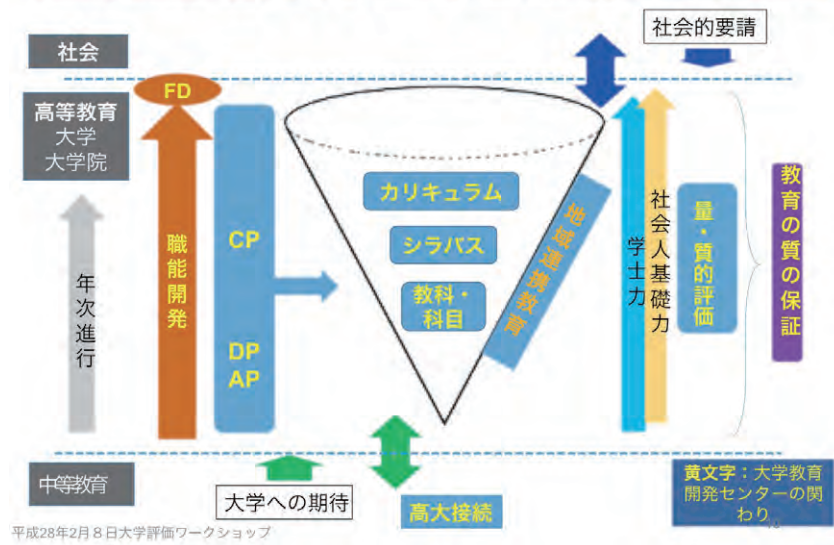
## 2. 大学教育開発センターの設置：継承と新規

教育企画室	・ DP・CP・APの整備 ・ 教育年報発行 (←評価委員会・教務班)	1. アドミッション部会	①入試形態と入学後学修成果 ②入試改革対応 ③高大接続 ④大学授業開放 ⑤入学時アンケート等
	③FD研修会 (←評価委員会)	2. 共通教育部会	①教養教育の体系化(新カリキュラム)、②効果的カリキュラム実践、③質的教育評価 ④共通教育と専門教育の連携 ④地域連携教育等
	・ 教育研究紀要	3. FD部会	①授業評価アンケート ②相互授業参観 ③教職員職能開発調査研究 ④教育支援 ⑤新任教員研修等
	・ 地域連携教育推進→WG ・ クォーター制 ・ 各種アンケート系統化	4. 教育評価部会	①シラバス構築 ②カリキュラム評価、③GPA等教育評価 ④汎用スキル評価等
		5. キャリア形成支援部会	①就職・進学支援体制構築 ②インターンシップ ③卒業時アンケート ④卒業アンケート ⑤キャリア支援システム構築 ⑥同窓生組織化等
		6. 学生支援部会	①学生生活活性化、②ボランティア育成・組織化、③学内ユニバーサルデザイン化調査研究等
		継承      新規	9

平成28年2月8日大学評価ワークショップ

⑩

## 3. 大学教育開発センターの事業・活動の位置付け



⑪

## 3. 大学教育開発センターFD・SD研修事業：目的

1. 本学の教員と職員が、教育に関する昨今の国内、国外の潮流を知り、関連知識を共有し、教職協働で教育に当たる
2. 大学教育に関する諸活動に関する最新の知識を得て、本学の教育活動への反映を図る
3. 教員の職能開発に関する諸要素について学び、本学での教育実践に活用する。
4. 本学の特性を踏まえた教育システムの構築を図る。
5. 新任教員研修に資する。

平成28年2月8日大学評価ワークショップ

11

⑫

## 3. センターFD・SD研修事業：実施形態

### FD・SD研修会の3様態

	全学研修会	教育開発講座	センターワークショップ
開催主体	センター	部会&センター	部会&センター
内容	FD, FD・SD	FD, FD・SD	FD, FD・SD
開催頻度	2~3回/年	4~6回/年	6回/年
外部講師	◎	◎	○
内部講師	○	○	◎
公開範囲	1.全学教職員(全員参加) 2.外部 3.学生	1.センター教職員 2.全学教職員 3.学生 4.外部	1.センター教職員 2.全学教職員 3.(学生) 4.(外部)
内容詳細	全学的に有効性の高いもの(考え方や仕組み)	各部会の事業に関わるもの	各部会の調査・研究成果、事業提案、FD研鑽等

平成28年2月8日大学評価ワークショップ

12



13

### 3. センターFD・SD研修事業：H26～27年度実施状況

【全学研修会】			
1	『全学的な教育改革のための組織改編と教職協働～愛媛大学での経験から～』	大学教育開発センター	
2	『産業界ニーズGPにおける本学デザイン学部の取組概要』	大学教育開発センター	
3	『大学教育とファカルティベロブメント』	大学教育開発センター	
【教育開発講座】			
1	『岡山大学アドミッションセンターの十年』	アドミッション部会	
2	『広島大学における「クォーター制(4学期制)」導入について』	教育評価部会	
3	『発達障害の理解と支援—これからの大学に求められること』	学生支援部会	
4	『スピーキングと多読学習に励む県大生—オープンボイス開発と英語高度化プロジェクト』	共通教育部会	
5	『「地域密着型大学」発・キャリア支援のこれからのかたち』	キャリア形成支援部会	
6	『「アクティブラーニング（能動的学習）型授業の意義・効果・始め方』	FD部会	
【センターワークショップ】			
1	『入試ワークショップ-全国大学入学者選抜研究連絡協議会・研究会参加報告』	大学教育開発センター	
2	『アクティブラーニングに関する本学の実施状況と今後の展開』	FD部会	
3	『現代の学生の特質を踏まえたグローバル人材育成教育』	大学教育開発センター	
その他	グローバルセミナー『英語で学ぶプロジェクト企画とマネジメント』	大学教育開発センター	

平成26年2月8日大学評価ワークショップ 13

14

### 3. センターFD・SD研修事業：実施評価(アンケート)

1. 参加者ご自身について (→任意)  
氏名、所属等
2. 研修会についてご意見を聞かせてください (5 択及び理由)
  - 1) 今回の研修会のテーマについて
  - 2) 講師の説明について
  - 3) 講師の用意した資料（投影資料、ハンドアウトなど）について
  - 4) 研修会の長さについて
  - 5) 研修会全体について
  - 6) 自分に必要な知識やスキルなどを学ぶことができた
3. 今回の研修会は全体を通して有益だったでしょうか。 (5 択及び理由)
4. 今後、ご自分の活動で本日得た知識や方法を活用するお考えはありますか。 (5 択及び理由)
5. 今回の研修会（講演、実施方法等）に対する感想、意見を自由に記入ください。 (→自由記述)
6. 今後の研修会等において、希望するテーマがあれば、具体的にご記入ください。 (→自由記述)

平成26年2月8日大学評価ワークショップ

14

15

### 3. センターFD・SD研修事業：全学研修会概要

実施時期	FD・SD	テーマ	講師	所属
H26.12	FD・SD	『全学的な教育改革のための組織改編と教職協働～愛媛大学での経験から～』	小林直人教授	愛媛大学教育企画室長
H26.1	FD	『産業界ニーズGPにおける本学デザイン学部の取組概要』キャリア形成支援とFDの結合	森下眞行教授、野宮謙吾准教授、吉原直彦教授	(本学)
H27.5	FD	『大学教育とファカルティベロブメント』	アンドリュー・T・イシダ教授	UC Davis校

組織化されたFDのあり方を学ぶ

大学教育におけるキャリア形成新支援のあり方を学ぶ

大学組織改革と教職協働のあり方を学ぶ

平成26年2月8日大学評価ワークショップ

15

16

### 3. FD・SD研修事業：第1回全学研修会概要

H26.12.4	FD・SD	『全学的な教育改革のための組織改編と教職協働～愛媛大学での経験から～』	小林直人教授、愛媛大学
----------	-------	-------------------------------------	-------------



大学組織改革と教職協働のあり方を学ぶ

概要：

- ・愛媛大学のFD
- ・愛媛大学教育・学生支援機構の教職協働の例
- ・SPODの教職協働の例
- ・愛媛大学での教職協働の課題
- ・今後重要となるIR部門では教職協働が理想
- ・教育政策の動向を共有する工夫が必要

参加者：154名（教員：111名、職員：43名）

平成26年2月8日大学評価ワークショップ

16

17

### 3. FD・SD研修事業：第2回全学研修会概要

H26.1.16	FD	『産業界ニーズGPにおける本学デザイン学部取組概要』キャリア形成支援とFDの結合	森下 眞行教授、野宮 謙吾准教授、吉原直彦教授（本学）
----------	----	--	-----------------------------



大学教育におけるキャリア形成新支援のあり方を学ぶ

**概要：**

- 岡山県立大学デザイン学部における、「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」（平成24年度文科省採択）を紹介
- デザイン学部の取組である「仕事をデザイン創造する産学官連携人財育成教育」の活動成果について報告
- 共同実施者である岡山理科大学、山口東京理科大学の取組と連携取組である「自律的な技術者養成プログラムの実施」の紹介
- 本学における学生のキャリア形成の試みの報告

参加者：126名（教員：121名、職員：7名）

平成28年2月8日大学評価ワークショップ

17

18

### 3. FD・SD研修事業：第3回全学研修会概要

H27.5.25	FD	FD研修会『大学教育とファカルティディベロップメント』	アンドリュー・T・イシダ教授	(UC Davis校)
----------	----	-----------------------------	----------------	-------------



組織化されたFDのあり方を学ぶ

**概要：**

- 1) 教員の教育における責務
- 2) カリキュラムにおける科目の担当者
- 3) 方針と良い講義の関係
- 4) 教育の質の測定
- 5) 高い質の授業へのモチベーション
- 6) 高い質の授業を達成
- 7) カリキュラムの進化

講演後、大学教育開発センター各部会とワークショップ開催

参加者：126名（教員：97名、職員：24名、その他：5名）

平成28年2月8日大学評価ワークショップ

18

19

### 3. FD・SD研修事業：教育開発講座及びセンターワークショップ

#### アドミッション関係

<b>【第1回教育開発講座】</b>			
H27.5	『岡山大学アドミッションセンターの十年』	佐竹恭介教授・岡山大学	アドミッション部会
<b>【第1回センターワークショップ】</b>			
H27.7	『入試ワークショップ-全国大学入学者選抜研究連絡協議会・研究会参加報告』	研究会参加者・岡山県立大学	大学教育開発センター



**概要：第1回教育開発講座**

- ・入学者選抜に係わる企画・立案およびその関連の研究
- ・入試問題作成、入試実施におけるミス防止等の統括
- ・大学概要および入試関連の情報提供と広報活動

参加者：58名（教員：50名、職員：8名）

**概要：第1回センターワークショップ（報告）**

1. セミナー「大学入試と高校生の学習行動」
2. 公開討論会「大学入学者選抜の在り方について」
3. 企画討論会(1)「グローバル化時代の英語運用能力の育成と大学入試」
4. 企画討論会(2)「各大学の個別選抜改革・再考」
5. 研究会

参加者：31名（教員：25名、職員：6名）

平成28年2月8日大学評価ワークショップ

19

20

### 3. FD・SD研修事業：教育開発講座及びセンターワークショップ

#### アクティブラーニング

<b>【第2回センターワークショップ】</b>			
H27.9	『アクティブラーニングに関する本学の実施状況と今後の展開』	中村光教授、井上貴浩准教授、森下眞行教授（本学）	FD部会
<b>【第6回教育開発講座】</b>			
H27.12.	『「アクティブラーニング（能動的学習）型授業の意義・効果・始め方』	小林昭文教授、産業能率大学	FD部会



**概要：第2回センターワークショップ**

- ・保健福祉学部のアクティブラーニング事例
- ・情報工学部のアクティブラーニング事例
- ・デザイン学部アクティブラーニング事例

アクティブラーニング授業法向上と、導入授業科目の拡大

参加者：41名（教員：34名、職員：7名）

**概要：第6回教育開発講座**

- ・アクティブラーニングの動向
- ・アクティブラーニングの理論
- ・「アクティブラーニング実践塾（体験セミナー）」

参加者：37名（教員：33名、職員：4名）

平成28年2月8日大学評価ワークショップ

20

21

### 3. FD・SD研修事業：教育開発講座及びセンターワークショップ

#### 学生支援・キャリア関係

##### 【第3回教育開発講座】

H27.8	『発達障害の理解と支援—これからの大学に求められること』	柘植雅義教授、筑波大学	学生支援部会
-------	------------------------------	-------------	--------

##### 【第5回教育開発講座】

H27.11	『地域密着型大学発』のキャリア支援のこれからのかたち』	児美川孝一郎教授、法政大学	キャリア形成支援部会
--------	-----------------------------	---------------	------------

##### 概要：第3回教育開発講座

- ・大学に在籍する障害学生数
  - ・障害者権利条約と障害者差別解消法の施行
  - ・大学等における障害者への差別的取扱いの禁止と合理的配慮の不提供の禁止
  - ・大学として取り組むべき課題
- 参加者：118名（教員：56名，職員：24名，その他：38名）

##### 概要：第5回教育開発講座

1. 大学におけるキャリア支援のこれまで
  2. 今日の大学をめぐる状況
  3. 大学におけるキャリア支援—どこに問題があったのか
  4. 大学におけるキャリア支援のこれからのかたち
  5. 「地域密着型大学」が直面する課題と可能性
- 参加者：62名（教員：51名，職員：7名，その他：4名）

平成28年2月8日大学評価ワークショップ



22

### 3. FD・SD研修事業：教育開発講座及びセンターワークショップ

#### クォーター制

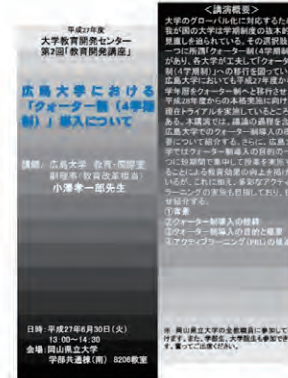
##### 【第2回教育開発講座】

H27.6	『広島大学における「クォーター制(4学期制)」導入について』	小澤孝一郎教授、広島大学	教育評価部会
-------	--------------------------------	--------------	--------

##### 概要：第2回教育開発講座

- ・広島大学における学事暦変更の経緯
- ・背景
- ・クォーター制導入の経緯
- ・クォーター制導入の目的と概要
- ・アクティブラーニング(PBL)の推進

参加者：100名（教員：78名，職員：20名，その他：2名）



平成28年2月8日大学評価ワークショップ

22

23

### 3. FD・SD研修事業：教育開発講座及びセンターワークショップ

#### 共通教育関係

##### 【第4回教育開発講座】

H27.9	『スピーキングと多読学習に励む県大生—オープンボイス開発と英語高度化プロジェクト』	三上ジュティス講師、松田雅子教授、南津佳広講師（本学）	共通教育部会
-------	---	-----------------------------	--------

##### 【第3回センターワークショップ】

H28.2.5 実施予定	『現代の学生の特質を踏まえたグローバル人材育成教育』	西村眞教授、名古屋大学	大学教育開発センター&地域共同研究機構
-----------------	----------------------------	-------------	---------------------

##### 概要：第4回教育開発講座

- ・岡山県立大学における独自の英語高度化プロジェクトの開始
  - ・スピーキング力養成のための音声訓練
  - ・本学独自で開発したスピーキングテスト「オープンボイス」について
  - ・英語の本の多読による英語力向上の試みについて
- 参加者：33名（教員：18名，職員：9名，その他：6名）

##### 概要：第3回センター・ワークショップ (H28.2.5 実施予定)

平成28年2月8日大学評価ワークショップ

23



24

### 3. FD・SD研修事業：教育開発講座及びセンターワークショップ

#### グローバル&マネジメント関係

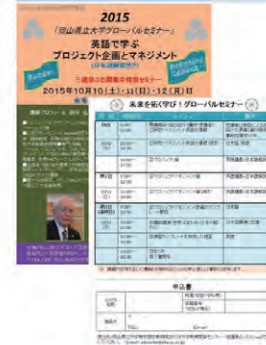
##### 【第1回グローバルセミナー】

H27.10	グローバルセミナー『英語で学ぶプロジェクト企画とマネジメント』	田中弘氏、バシフィック&アトラントニック PMインベション代表	大学教育開発センター
--------	---------------------------------	---------------------------------	------------

##### 概要：(演習)

- 開講挨拶・自己紹介（講師・受講者）
- ①研究・マネジメント英語の基礎
  - ②プロジェクト論
  - ③プロジェクトマネジメント論I
  - ④プロジェクトマネジメント論II
  - ⑤プロジェクトマネジメント計画のテンプレート解説
  - ⑥講師講演「世界は変わる：日本の関わり」
  - ⑦演習テンプレートを使用した提言
  - ⑦まとめ

参加者：32名（教員：5名，職員：3名，学生：18名，その他：6名）



平成28年2月8日大学評価ワークショップ

24

25

### 3. センターFD・SD研修事業：まとめ

- 平成26年度後期から開始した**FD・SD研修事業**は、『教職協働』を念頭に行い実施した。その結果、職員の参加も少なからずあった。
- 全学研修会**は、全員参加を促したこともあり、従来にない多数の参加人数となった。啓発という観点からは一定の役割を果たしたと考えられる。
- 部会事業である**教育開発講座**は当該分野に関する知識や潮流を知るために有効であったと考えられる。
- センターワークショップ**は、各部会の課題を共有し、専門性を高めるといった目的であるが、活発に行われたとは言い難かった。

26

### 3. FD・SD研修事業：今後の展開



#### H28年度計画

##### 【大学教育開発センター・全学研修会予定】

- ・FD研修会2回 6月 10月・
- ・FD・SD研修会1回 1月実施

##### 【大学教育開発センター・教育開発講座】

- ・部会主催 3～4回 (部会合同実施推奨)

##### 【大学教育開発センター・センターワークショップ】

- ・部会主催ワークショップ各部会1回
- ・外部研修会報告 (FD, FD・SD, SD (職員))

27

### 5. センター：今後の課題

#### 【業務実施のあり方】

- ・センター部会による企画立案、提案機能の強化
- ・センター部会横断によるプロジェクト業務の遂行と強化
- ・各種教育改革におけるP D C Aを保障する仕組みづくり

#### 【機能的組織構成】

- ・多様化する業務に対応するプロフェッショナル職員の育成や採用
- ・部会の新設やセンター化による緻密な対応

(COC+「岡山創生学」の“教育改革WG”、ボランティアセンター他)

28

## ② 岡山県立大学 教育力向上支援事業について

①

### 教育力向上支援事業

●事業について

1) 創設:平成21年度

●取扱要綱より

2) 目的:大学全体や学部・学科の人材養成の目的、学生に身につけさせるべき学修成果を明確にし、教育活動の成果として、本学が学生に保証する基本的な資質を身に付けた人材を輩出し、社会の信頼に応えるため、教育の充実・質の向上及び教員の教育力の向上に直接結びつく調査並びに実践活動に交付する助成費。

3) 交付対象:

- ・共通(教養)教育の改革推進に関するもの
- ・学部教育及び大学院教育の改革推進に関するもの
- ・高大接続、入学者選抜方法の改善及びキャリア形成支援に関するもの
- ・教員の教育力向上・開発に関するもの

●採択方法(H.26年度分以降)

4) 学生部長・各学部長・共通教育部長・大学教育開発センター長・事務局職員をメンバーに審査会を形成、査定案を作成、結果を教育研究活動委員会で協議。

③

5) 創設以来の採択件数等

年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
件数	7件	13件	13件	11件	13件	27件	21件
総額	443万円	550万円	957万円	680万円	517万円	944万円	940万円

6) H.26年度事業以降の主な改善点

- ・取扱要綱の改訂(学生の海外渡航事業への一定限度内での旅費補助等)
- ・学生部長、学部長等、事務局との協働による審査(審査方式)
- ・審査における全学的取組・波及効果の広い取組への重点配分(審査方針)
- ・審査の観点～"必要性""発展性""合理性"～の開示及びこれに基づく審査(同)
- ・査定通知書に加え、理由・再計画上の留意点等を記した文書の添付(H.26～)
- ・教育年報における事業概要・申請者の自己評価等記述の義務づけ(H.26～)

7) H.26年度事業以降の採択事業の傾向

- ・全学的課題(センター関係事業)、グローバル教育関係事業の漸増

8) 今後の課題

- ・教育年報への継続掲載の他、合同報告会(講評会)の実施が必要である
- ・教養教育改革に関する事業申請が期待される

②

平成27年度事業一覧 \*反転表示は今回の発表者

分類	代表者	事業名	分類	代表者	事業名
共通スポーツ	高戸教授	地域資源を活用したスポーツ授業の開発と効果検証	専門	井上准教授	精神保健活動の国際的理解と実践力の獲得支援
共通・専門	岩本教授	建築・デザイン海外研修による国際交流推進と建築・教養教育の充実 2	共通・専門	岸本教授	共通教育と専門教育の連携によるグローバル社会に対応できる管理栄養士養成プログラムの開発
専門	名越准教授	成人看護学急性期におけるシミュレーション教育効果の検証	専門	佐藤教授	リアリティショックを克服し就業継続できる力量を有した保育者養成のプログラム開発
専門	山口教授	看護実践能力向上に向けたブレンディッドラーニングシステムの構築	専門	川村助教	看護専門職のためのグローバル・ラーニングシステム構築
専門・横断	中村教授	岡山県立大学に適合した保健・医療・福祉の多専門職連携教育プログラムの開発	専門・横断	福濱教授	デザイン学部・保健福祉学部学際的教育-初等教育施設に関する見学と講義
専門	福田准教授	ものづくり関連授業の総合的理解度の向上に向けた教育方法の検討	専門・横断	齋藤准教授	情報工学部・デザイン学部 合同による協働教育プログラムの実践
専門	井上准教授	実用的課題の実験科目への導入とメカトロ教育への実践	キャリア	山下教授	キャリア形成支援を目的とする教育体制整備に関する調査研究
専門・横断	金丸教授	ものづくり工房運営についての調査研究 3	アドミッション	高橋教授	高校生のための大学授業開放
専門	森下教授	デザインパテントコンテストを活用した実践型創造力創出教育プログラムの開発	学生支援	迫教授	学生相談室業務の機能向上と情報発信のための環境整備
専門	島田准教授	ワークショップを活用した学生のキャリア形成プログラム	共通・語学	朴講師	使える役に立つ実践的な韓国語を身につける学習支援
専門	山下講師	キャリア形成支援のためのポートフォリオセミナー及び企画提案力向上を目的とした教育プログラムの実施			

④

### 大学評価ワークショップ

## 岡山県立大学平成27年度教育力向上支援事業 「キャリア形成支援を目的とする教育体制整備に関する調査研究」

岡山県立大学教育開発センター  
キャリア形成支援部会  
部会長 山下広美

⑤

## 事業の目的

この調査研究は、卒業生を特別講師として招聘し、講演会やワークショップ・ディスカッション等を開催し、学科学部を超えた教職協同（同窓会含む）の視点から調査研究を進め、本学に適した適用や在学生へのキャリア形成支援への展開および構築について探っていくことを目的とする。

⑦

## 第3回県大吉備塾 第1部

- 学外講師：つなこ 氏（アイディアファクトリー株式会社、イラストレーター）
- 対談者：吉原直彦 教授（造形デザイン学科）
- 実施日時：平成27年7月23日14:30～15:45
- 会場：共通棟南8206教室
- 企画運営：難波久美子、斎藤美絵子
- 参加人数と構成：学生35名/教員11名/その他3名/計49名

⑥

## 県大吉備塾の広報用ポスター



⑧

## 第3回第1部吉備塾概要

本学デザイン学部ビジュアルデザイン学科グラフィックデザインコース 2007年度卒業生で、株式会社 アイディアファクトリーのイラストレーターである、つなこ氏を講師として招聘した。講演前半は、2008年に就職して以降の自分が関わった仕事として、キャラクターデザイン、イラスト、ゲームのキャラクター監修のほか企画立案、シナリオ及び後進指導や広報展開などを紹介頂いた。そして、在学時からの精力的な活動を、複数のクリエイター登録、携帯用のアバターやWebゲームのイラスト、さらには書籍の表紙・マンガ担当を通じ出版にも関わった例を挙げ、各々の仕事で得た経験の大切さについて述べて頂いた。後半は、吉原教授との対談形式により、在学時から現在までを通して、志を1ステップずつ具体的なかたちにすることで未来を切り拓くプロセスの重要性や、彼女が仕事を通して大切にしていること、大学時代の勉強がどう現在の仕事に反映されているかなどについて、掘り下げて具体的に語ってもらった。講演の最後には、使用ソフトや練習法などの専門性のあることや、仕事に対するモチベーションの維持についてなどが、質疑応答された。講演後には、つなこ氏とのフリートークの機会が設けられた。

⑨

## 卒業生の講演および在学生の参加風景



⑪

## 第3回第1部 県大吉備塾 アンケート結果

評価	1LV(最小)	2LV	3LV	4LV	5LV(最大)
質問1	0	0	2	17	24
質問2	10	24	7	0	2
質問3	3	25	10	1	4

アンケートにおける質問1～3の評価（単位：人）（LV＝レベル）

⑩

## 「県大吉備塾」におけるアンケート調査

学部（研究科） \_\_\_\_\_ 学科（専攻） \_\_\_\_\_ 年生 \_\_\_\_\_  
 本日は、ご参加いただきありがとうございます。今後、こういった機会を皆様により良く提供できるように改善していきたいと考えておりますので、是非ご意見をお聞かせください。

1. 今回の「県大吉備塾」はいかがでしたか？

物足りない ← 1 2 3 4 5 → 満足

2. 今回の「県大吉備塾」は今後の学生生活をすこす上で役立つと思いますか。

かなり役立つ 役立つ まあ役立つ 役にたない わからない

3. 今回の「県大吉備塾」は今後の就職活動に役立つと思いますか。

かなり役立つ 役立つ まあ役立つ 役にたない わからない

4. 今回参加して良かったと思う点または改善点があればお答えください。

5. どのような内容の「県大吉備塾」なら参加したいと思いますか。ご自由にお答えください。

ご協力ありがとうございました。

⑫

## 質問4: <参加して良かった点、改善点は？>

- ・学生時代から活躍していたことに驚いた。自分もクリエイター登録などしてみたい。(1年)
- ・クリエイター登録をすることや、学生時代から企業との関わりを多く持つことが大切だと言うことが改めて分かりました。(2年)
- ・私はイラストは描けないので、すごいなと思った。何か得意なことをみつけて、いい作品ができていけたらなと思い、モチベーションが上がった。(2年)
- ・有名な方から貴重な意見が聞けた。(2年)
- ・ありがとうございました。とても励みになりました。(2年)
- ・実際に活躍している人のリアルな内側を知ることができたのが良かった。(2年)
- ・好きなことを仕事にしている方の話を直接聞くことが出来てよかった。(2年)
- ・プロのお話を聞く機会がなかなかないので、とても為になった。(デザ工3年)
- ・イラストレーターのお仕事を知ることができ、裏話のような報酬のお話も聞いて良かった。(4年)
- ・吉原先生とのニッチ分野に対する知識のギャップが討論を面白くしていて良かった。(M1)
- ・内容が広く深く大変良かった。考え方がとてもポジティブで、精神的な面でも学生にとって参考になると思う。(教員)
- ・質問もたくさん出て良かったと思う。先生との対話が良かったように感じる。(教員)
- ・イラストの価格など、リアルな話が聞けた。(教員)
- ・興味のあるなしに関わらず、知ることの大切さとして、もっと多くの学生に参加して欲しかった。(教員)

13

質問5: <どのような「県大吉備塾」なら参加したいか？>

- 自身の尊敬する先輩の講演。(1年)
- つなこ氏のようなイラストレーターのライブペイントが見たい。(1年)
- 広告やパッケージなど、地域と連携した仕事について知りたい。(2年)
- 雑誌やポスターや映像業界へ就職した人の話が聞きたい。(2年)
- 造形的な活躍をしている方の話。(2年)
- グラフィックデザイナーよりは、テキスタイルやセラミックのような、どのような就職先があるのかよく分からないコースの卒業生の話を知りたい。(2年)
- いろんな職のクリエイターさんがどのように働いているのか、この調子でたくさん聞いていきたい。(3年)
- 今回のように、アニメ業界で活躍している人の話を聞きたい。(3年)
- デザイン系や広告系。(4年)
- 今回のような内容はとても意義あると思う。もっと多くの学生に参加してほしい。(教員)
- 今回のような、学生があこがれる卒業生をまたお願いしたい。(教員)
- 様々なジャンルの方に来て頂けること。(学生の希望や要望に応えられること)
- 日々の取組や生活を見直すきっかけになる内容。(後悔していること、やってよかったこと)(教員)

15

県大吉備塾 各回のアンケート結果

第3回第2部

評価	1LV(最小)	2LV	3LV	4LV	5LV(最大)
質問1	0	1	23	42	41
評価	かなり役立つ	役立つ	まあ役立つ	役立たない	わからない
質問2	23	59	22	0	3
質問3	17	47	29	5	9

第4回

評価	1LV(最小)	2LV	3LV	4LV	5LV(最大)
質問1	0	0	1	19	8
評価	かなり役立つ	役立つ	まあ役立つ	役立たない	わからない
質問2	3	22	3	0	0
質問3	4	19	2	0	3

第5回

評価	1LV(最小)	2LV	3LV	4LV	5LV(最大)
質問1	1	0	24	64	54
評価	かなり役立つ	役立つ	まあ役立つ	役立たない	わからない
質問2	41	77	22	1	2
質問3	28	85	25	3	2

14

県大吉備塾 各回の概要

第3回県大吉備塾 第2部

○学外講師：東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻 清水誠氏  
 ○実施日時：平成27年7月23日16:00~17:00  
 ○会場：共通棟南8206教室  
 ○参加人数と構成：学生101名/教員7名/計108名

第4回県大吉備塾

○学外講師：Pino Graphics代表 デザイナー 吉城敬和 氏  
 ○実施日時：平成27年10月22日14:30~15:50  
 ○会場：デザイン学部棟3414教室  
 ○参加人数と構成：学生21名/教員9名/計30名

第5回県大吉備塾

○学外講師(パネラー)  
 看護学科：国立病院機構岡山医療センター 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 鳥越俊宏氏  
 栄養学科：光生病院 管理栄養士 三宅知美氏  
 保健福祉学科：岡山旭東病院 医療ソーシャルワーカー 白神彰子氏

第6回県大吉備塾

○学外講師  
 サノヤス造船(株) 氏平信輔氏  
 (株)マリタイムイノベーションジャパン 連山大志郎 氏  
 ○テーマ：「医療現場におけるチームアプローチ」～脳卒中(脳血管障害)患者へのかかわりを中心に～卒業生の実践  
 ○実施日時：平成27年10月29日(木)12:40~14:10  
 ○会場：学部共通棟(南)8206大講義室  
 ○参加人数と構成：学生143名/教員6名/計149名

16



～教育力向上支援事業～  
**高校生のための大学授業開放**





①7

## 目的

高校生向けにアレンジした本学の授業を提供することによって、高校生に**大学で学ぶ意義と楽しさ**を理解させ、高校での学習を受験対策としてではなく、**大学で学ぶために必要な基礎学力の修得**のために取り組むきっかけとさせることを目的として、27年度より全学的に導入された高大連携事業

## 効果

高校での学習の目的を明確に定めさせることにより、**高校と大学での学習効果の向上**への反映が期待されるだけでなく、**意欲の高い学生の入学**にもつながることを期待

①9

## 実施状況2

### 4. 情報工学部

- 10:20~11:50 信号処理入門(講義)
- 10:20~11:50 高校生のための材料力学入門(講義)
- 10:20~11:50 身体の機能を学ぶ(講義)
- 13:00~14:30 信号処理入門(演習)
- 13:30~15:00 高校生のための三次元CAD入門(演習)
- 13:00~14:30 身体の機能に関する実験・演習(演習)



### 5. デザイン学部

- 14:00~14:50 つかいやすいデザインをする(講義)
- 14:00~14:50 デザイン・素材加工の現在と今後(講義)
- 14:00~14:50 プレゼンテーションの方法:何をせどう伝えるか(講義)
- 14:00~14:50 シンボルマーク・ロゴタイプデザインの実際(講義)
- 14:00~16:00 作ってわかる!3Dプリンタワークショップ(実技)
- 14:00~16:00 スタイルフォームによるモデリング(実技)
- 14:00~16:00 ミニ登り窯焼成体験(実技)
- 14:00~16:00 フェルトメイキング(実技)

①8

## 実施状況1

### I 実施日

- 平成27年6月27日(土)13:30~(デザイン学部)
- 平成27年8月29日(土)10:00~(保健福祉学部)
- 平成27年8月29日(土)10:20~(情報工学部)



### II 授業内容

1. 保健福祉学部看護学科
  - 10:10~11:40 高校生のための看護学入門(講義)
  - 13:00~14:30 高校生のための看護学演習(演習)
2. 保健福祉学部栄養学科
  - 10:10~11:40 高校生のための生化学入門(講義)
  - 10:10~11:40 高校生のための食品学入門(講義)
  - 13:00~15:00 高校生のための調理学実験(実験)
  - 13:00~16:00 高校生のための分子生物学実験(実験)
3. 保健福祉学部保健福祉学科
  - 10:10~12:00 社会福祉学概論・介護福祉学概論・子ども学概論
  - 13:00~13:50 14:00~14:50 ソーシャルワーク・ケアワーク・保育内容(演習)

①0

## 事業の特徴 (講義)

### ● 高校の教科書の内容から発展させる。

(例) 糖質の過剰摂取が肥満(中性脂肪の蓄積)にどのようにつながるかを、グルコースの代謝・インスリンとの関係・カルボン酸とアルコールの化学反応などに基づいて理解させる。

(高校生のための生化学入門)

(例) トラス構造の解析方法について、重りの吊るされた3本の糸にかかる張力を求めさせる高校の物理学の問題から発展させて理解させる。

(高校生のための材料力学入門)



②1

## 事業の特徴（実習）

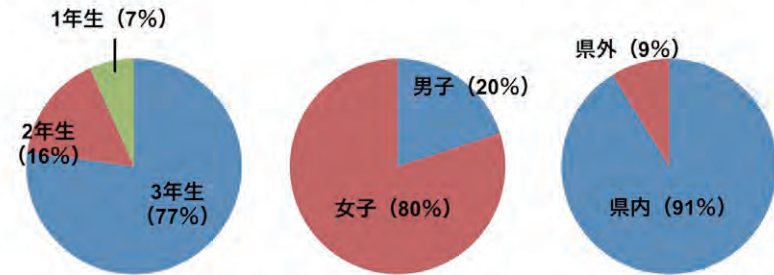
- 高校で学ぶ知識で理解できる大学での実験を体験させる。  
 (例) 高校生物で学習するPCRを活用して、ゲノムの多型性を理解させる実験を行う。  
 (高校生のための分子生物学実験)  
 (例) 高校生物で学習する心臓の仕組みとはたらきを通して、心拍数の変動の意義を理解させる。  
 (身体の機能に関する実験・演習)

- 専門教育に触れる体験をさせる。  
 (例) フィジカルアセスメントモデル（人形）を用いて、血圧測定、呼吸音や腸音の聴診を行う。  
 (高校生のための看護学演習)  
 (例) 3Dプリンターを用いて、3Dモデリングを体験的に理解させる。  
 (3Dプリンターワークショップ)



②2

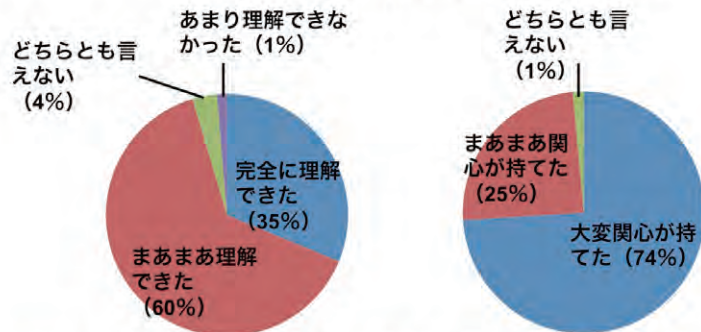
## 参加者内訳



→ 総計308名の参加者があった中で、3年生が77%を占めており、1・2年生の参加者数を増やすことは課題である。また、東は京都、西は熊本からの参加者もあったが、県内からの参加者数が91%を占めており、県外からの参加者数を増やすための広報面での工夫が必要と思われる。

②3

## 授業の理解度・関心度



→ ややハイレベルに設定した授業も多かったが、「完全に理解できた」(35%)と「まあまあ理解できた」(60%)で大部分を占め、全く理解できなかった学生はいなかった。また、ほぼ全員が授業に関心を持つことができ、「あまり関心が持てなかった」と、「全く関心が持てなかった」は0であった。

②4

## 事後アンケート結果1

- 「高校生活の中で化学と生物の知識を身につけないといけないと思いました。」
- 「今学んでいる高校の分野がどのように大学で応用されているかを身をもって体感することで、何のために学んでいるかなどを確認することができました。」
- 「今の勉強が大学での勉強にも繋がっているのだと嬉しく思いました。」

→大学の授業を理解するために、高校での学習がいかに重要であるかが理解

- 「先生方の説明がとてもわかりやすく楽しかったです。」
- 「授業、実験共に楽しく学ぶことができました。」
- 「頑張って合格して貴学で学びたいと思いました。」

→大学で学ぶ意義と楽しさが理解され、大学が求める基礎学力やモチベーションが高校生に伝わる

②5

## 事後アンケート結果2

- 「福祉の講義は難しく、理解しにくいところもありました。」
- 「講義では少し言葉などが難しく、話が理解しづらい部分もありました。」

→講義を難しい感じた学生もおり、意欲の高い学生の入学という本事業の目的の一つも達成されることが予想



②7

## 今後の課題

1. 広報開始時期の再検討 → 出前講義の実現
2. 参加者の入学後追跡調査による効果の確認
3. 県外高校生、1・2年次生の参加の促進
4. アクティブラーニング型授業の導入
5. 高校の単位認定化
6. 入試への活用

②6

## 受講者の推薦入試受験状況

	授業開放 参加者	推薦入試受験者 (参加者/全体)	合格者 (参加者/全体)	不合格者 (参加者/全体)
看護学科	66	21/41	6/12	15/29
栄養学科	68	27/39	8/12	19/27
保健福祉学科社会福祉学専攻	88	20/32	7/13	13/19
保健福祉学科子ども学専攻		9/21	1/7	8/14
保健福祉学部計	222	77/133	22/44	55/89
情報通信工学科	27	14/29	6/13	8/16
情報システム工学科	13	4/19	2/13	2/6
人間情報工学科	6	3/18	3/14	0/4
情報工学部計	46	21/66	11/40	10/26
デザイン工学科	40	7/13	6/10	1/3
造形デザイン学科		14/36	5/12	9/24
デザイン学部計	40	21/49	11/22	10/27
合計	308	119/248	44/106	75/142

→ 受講者全体の約4割が本学推薦入試を受験し、受験者の半数近くを占めた。推薦入試合格者の4割が受講者であった。

②8

## 大学評価ワークショップ

岡山県立大学教育力向上支援事業について

「岡山県立大学に適合した保健・医療・福祉の  
多専門職連携教育プログラムの開発」

保健福祉学部保健福祉学科・教授

中村 光

2016年2月8日

②9

## 沿革

- ・現在の高度化・複雑化した保健・医療・福祉の現場では、多専門職の連携が必須
- ・平成18年に、文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)として、「実践的チームガバナビリティー育成教育ー領域横断カリキュラムと臨床メンターを援用した実践的キャリア教育の試み」が採択(3年間)
- ・授業として「チームガバナビリティ演習」を新たに開講
- ・GP補助金終了後は、教育力向上支援事業として、プログラムの実施、改良を続けている

③0

## チームガバナビリティ演習

- ・対象:保健福祉学部3学科(看護学科、栄養学科、保健福祉学科)の3年生
- ・開講時期:前期、演習1単位(選択科目)
- ・受講者数:30名前後
- ・担当教員:3学科の9名(看護2、栄養3、保福4)
- ・特徴:多専門職連携教育(Interprofessional Education:IPE)、すなわち複数の専門職種メンバーが双方向的に学ぶ

③1

## アクティブラーニングとして実施

- ・IPEは多専門職の連携を現場で実現するための教育なので、アクティブラーニングであることが必須
- ・本学の「FD部会センターワークショップ:アクティブラーニングに関する本学の実施状況と今後の展開」(平成27年9月14日)において、取り組みを発表

③2

## 授業の展開

1. 自己紹介、連携についての討議
  2. IPEの基礎講義
  3. グループワーク
    - ①チーム形成
    - ②患者の臨床シナリオを用いた検討 ☆
    - ③倫理題材を用いた検討
  4. 現場実践者との交流 ☆
  5. 患者会との交流 ☆
  6. 病院見学実習
  7. 成果報告会 ☆
- ☆ 振り返りレポート  
(ポートフォリオ)の提出

③③

## ほぼ毎回

- ・小グループに分かれての討議とグループ発表
- ・小グループは学科横断的に構成され、各グループ学生5～6名、教員1～2名



③④

## グループワーク:臨床シナリオの検討

- ・看護・栄養・福祉の問題を抱える「糖尿病性腎症の患者」「脳梗塞の患者」の臨床シナリオについて検討
- ・チームで検討することにより患者をより深く理解できることを体験

### 【学生の振り返り:多職種連携の実際】

- ・同じ臨床シナリオでも、(学科によって)求める情報が全く異なっていた
- ・(学科によって)こんなに視点が違うのだと驚いた
- ・多職種連携の医療は物事を総合的に捉えられるということを実感した

③⑤

### 【学生の振り返り:他者から学ぶ】

- ・実際にグループメンバーの意見や他グループの発表を聞いて、多職種が協同することで検討は幅広く、深くなることを実感
- ・他グループの発表を聞いて、自分たちが気づかなかったことを気づかせてくれたことが印象的であった

### 【学生の振り返り:連携に必要なこと】

- ・(他学科学生に説明する際に)知識が足りないためにきちんと説明できない場面があり、なんとなくではなく正確に身に付けるよう反省
- ・(他の専門職に)自らの意見を発信していく力を高めることが必要

③⑥

## 患者会との交流

- ・岡山県腎臓病協会に所属する人工透析中の患者を招いて、闘病体験や専門職に望むことの講義を受け、患者を交えての討議を行う

### 【学生の振り返り】

- ・病院全体のチームでの支え、言葉や態度などの環境が重要で、チームが一丸となって連携し、1人の患者さんに全員が寄り添うことが大事
- ・(チーム医療とは専門職だけのものではなく)専門職と患者がフラットな関係を作り、患者が専門職と一緒に自分の病気に向き合い対応するのが、理想的なチーム医療

37

## 履修した学生の満足度は高い

	27年度	26年度	25年度
履修学生数	21名	36名	23名
大学の授業評価(5点満点)	4.7	4.5	4.7
独自のアンケート※			
この経験は自分にとって役立つものだ	6.5	6.5	6.5
この経験を通じて周囲の人から価値ある ものを得た	6.4	6.3	6.5
他の学生もこの経験をした方がよい	6.2	6.5	6.8

※「1:全くそう思わない」～「7:大変そう思う」

38

## 今後の課題・展望

- ・ COC+事業における副専攻「岡山創生学」の授業科目としての発展
- ・ 授業内容、授業方法ともに常に最新のものを導入


### ③ COC+ 「地域で学び地域で拓く'生き生きおかやま'人材育成事業」計画について

①

2016.2.8  
大学評価ワークショップ  
説明資料

## COC+ 「地域で学び地域で拓く' 生き生きおかやま' 人材育成事業」 計画について

岡山県立大学  
地域共同研究機構  
渡辺 富夫



②

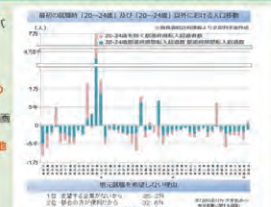
## COC+事業

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 ~地(知)の拠点COCプラス~


平成27年度予算額 44億円[新規] [旧COC事業平成26年度予算額 34億円]

**【背景・課題】**  
『人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる』という負のスパイラルに陥ることが危惧されている。  
地方／東京の経済格差拡大が、東京への一極集中と若者の地方からの流出を招いている。

**【事業概要】**  
地方の大学… 地域の自治体や中小企業等と協働し、地域の雇用創出や学卒者の地元定着率の向上に関する計画を策定  
東京等の大学… 地方の大学や地方公共団体・中小企業等と協働し、地方の魅力向上に資する計画を策定  
○ 大学が、地域の各種機関と協働し、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに地域が求める人材を育成するための教育プログラムを実施  
○ COC+推進コーディネーターを配置し、事業協働地域の連携強化や取組の進捗を管理  
⇒ 事業協働機関が設定した目標達成のため、大学力（教育・研究・社会貢献）を結集



**【COCからCOC+へ】** COC+大学と事業協働地域の機関が協働し、地域が求める人材を育成し、若年層の地元定着を推進



①事業協働地域の産業活性化、人口集積を推進するため、大学群、自治体、企業等の課題（ニーズ）と資源（シーズ）の分析

②①を踏まえた雇用創出・就職率向上の目標値設定


③地域が求める人材育成のための教育プログラムを実施するために必要な人的・物的資源の把握

④教育プログラムの構築・実施

**【大学】**  
● 地域特性の理解（地域志向科目の全学必修）  
● 専門的知識の修得と地域をフィールドとする実践した課題解決型学習による地域理解から課題発見・解決能力の修得等

**【地方公共団体・企業等】**  
● 実務家教員の派遣  
● 財政支援  
● フィールドワークやインターンシップ、PBL等を実施するための場の提供等

**【成果】**  
・事業協働地域における雇用創出  
・事業協働地域への就職率向上  
・五年層人口の東京一極集中の解消



③

## 事業の協働地域



☆岡山県

☆拠点都市(岡山県の3行政区毎)

**備前(県中央・東部)**  
⇒ 備前市, 岡山市(28年度から)

**備中(県西部)**  
⇒ 総社市, 笠岡市, 高梁市, 倉敷市

**美作(県北部)**  
⇒ 真庭市

④

## 事業の協働機関



☆参加大学  
岡山大学、岡山理科大学、山陽学園大学、就実大学、ノートルダム清心女子大学、吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学 (COC大学)

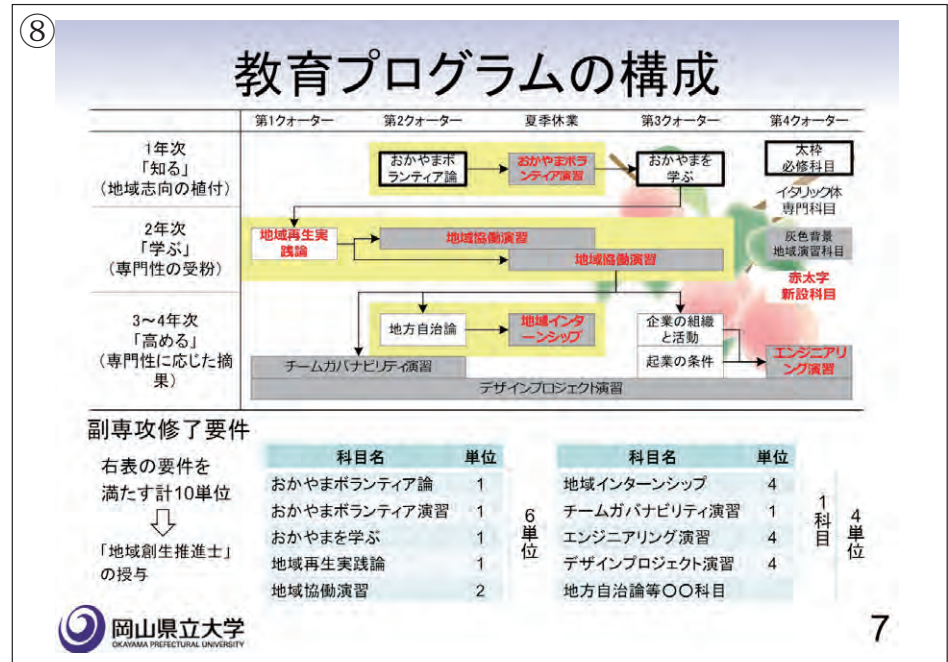
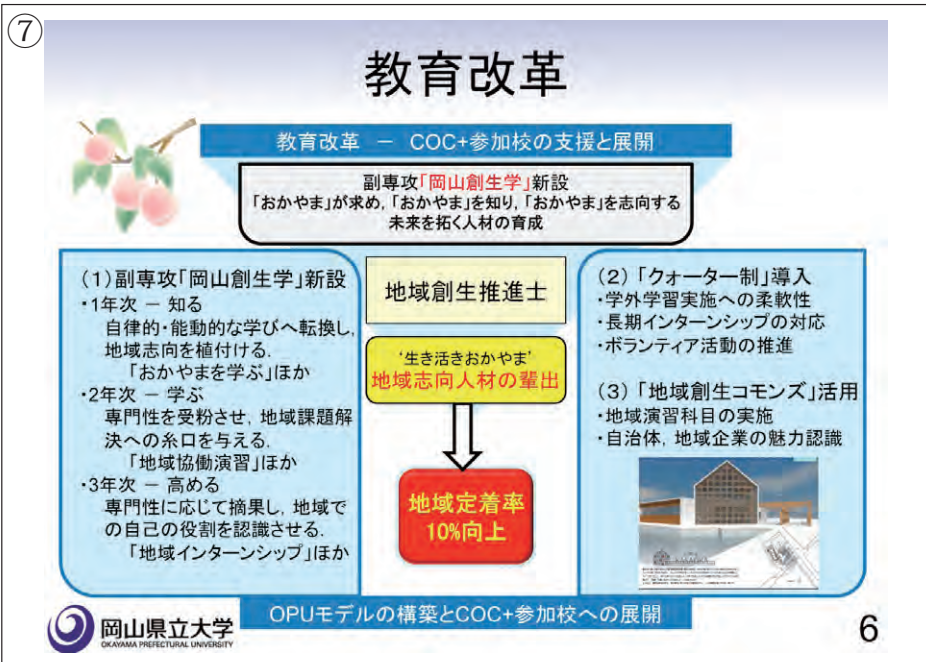
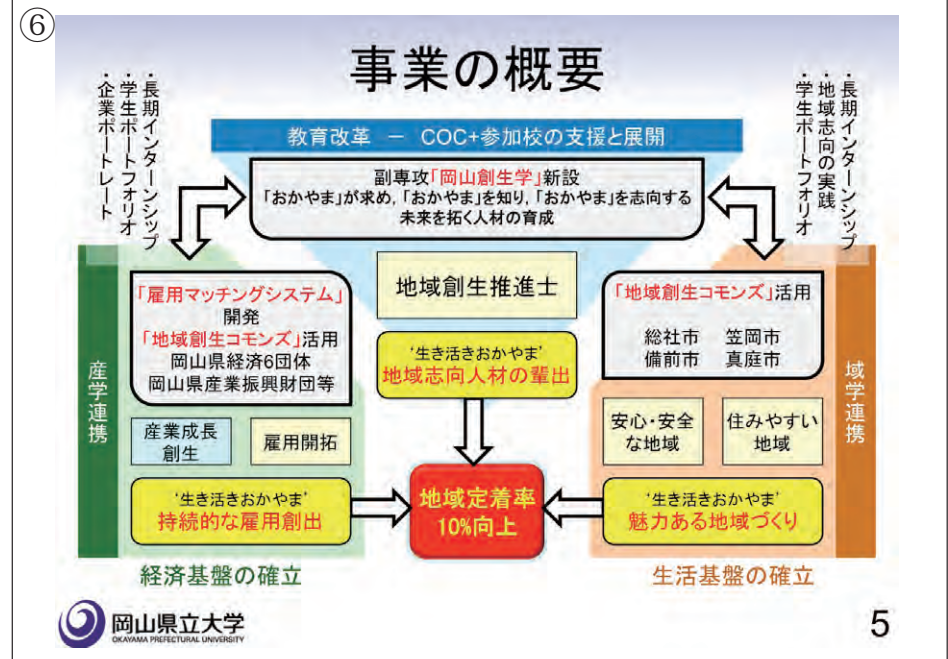
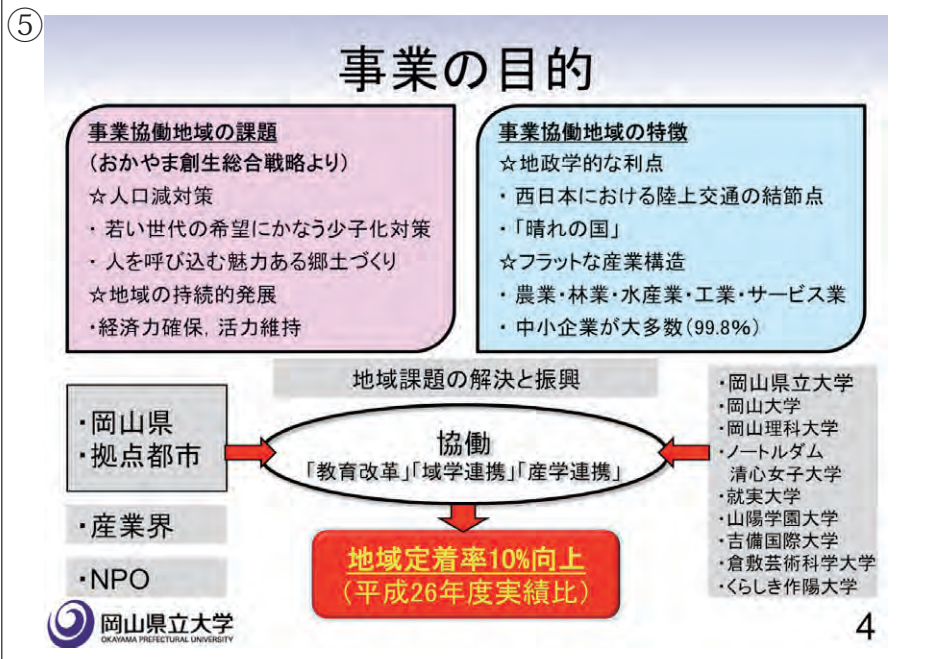
☆自治体、経済団体、広報、NPO  
自治体  
岡山県、岡山市、倉敷市、笠岡市、総社市、備前市、真庭市、高梁市

岡山県経済団体等  
岡山県経済団体連絡協議会、岡山県商工会議所連合会、岡山県経営者協会、一般社団法人岡山経済同友会、岡山県中小企業団体中央会、岡山県商工会連合会、岡山県産業振興財団

経済情報・広報  
中国銀行、トマト銀行、岡山経済研究所、山陽新聞社

岡山NPOセンター





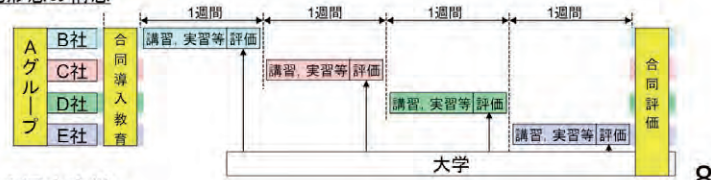
9

# 長期インターンシップ

「岡山創生学」実践科目 形態:受入先

地域インターンシップ	
チームガバナンス演習	連携自治体(1~4週間)
デザインプロジェクト演習	グループ企業(同一業種4社, 1週間/1社) : 両備, ナカシマ等
エンジニアリング演習	個別企業(4週間/1社) : 山陽電研, 岡南設計, OG技研等
	個別企業(1~2週間/1社) : 115社(H26, 岡山県中小企業団体中央会)

実施形態の構想



8

10

# 域学連携

- (1) 「地域創生コモンズ」の設置・活用
  - ・連携自治体と大学が協働した、教育改革、域学連携、産学連携のプラットフォーム
  - ・自治体と地域NPO団体等が協力して運営
  - ・地域振興ワークショップの開催、地域諸活動の活性化
- (2) 「岡山創生学」地域実践科目の実施
  - ・「地域協働演習」、「長期インターンシップ」等
  - ・地域課題の掘り起こし
  - ・ボランティア等の正課外活動の推進



「地域創生コモンズ」活用

総社市 備前市  
笠岡市 真庭市

安心・安全  
な地域

住みやすい  
地域

地域定着率  
10%向上

「生き生きおかやま」  
魅力ある地域づくり

生活基盤の確立



OPUモデルの構築とCOC+参加校への展開

9

11

# 域学連携活動に関する準備状況

地域創生コモンズ設置に向けて

2015年(平成27年)3月31日 火曜日

空知市が取り組んでいる高齢者  
と空知町が取り組んでいる定期船  
の新待合所整備事業で、待合所の  
デザインを決定していた岡山県立大に  
対して、最終的なデザイン案を提出  
し、最終的なデザイン案を決定した。

**住民集える開放的な場**  
岡山県立大が最終案

岡山県立大の学生が最終案を策定した。



笠岡市の港湾部に平成27年度着工。平成28年度竣工予定。  
市と協働して、大学生等が活動拠点コモンズとして設計。笠岡諸島の観光振興、商品開発、健康寿命の延伸などをテーマに活動する。



10

12

# 域学連携活動に関する準備状況

地域人材の掘起し(その1)

**総社市子育て人物図鑑プロジェクト**  
総社市の昭和地区の子育て支援の取り組みを紹介する冊子を作成  
・あそびのきち「おひさま」を中心とした活動  
・地域のさまざまな資源を活用  
・大学生からお年寄りまで、多世代の人が協力

**笠岡市「島人図鑑」プロジェクト**  
島で生活する島人の思いを載せた冊子を作成  
・スポーツシステム工学科(現人間情報工学科)と看護学科の教員及び学生が主体  
・笠岡市の情報発信、人材ネットワークづくり  
・北木島を中心とした笠岡諸島の紹介



11

# 13 域学連携活動に関する準備状況

## 地域人材の掘起し(その2)



**真庭市久世地区商店街活性化プロジェクト**  
 市民団体「まにワッショイ」が企画するイベントや地域を紹介する冊子の制作  
 ・「まにワッショイ」は真庭市久世地区の商店主が中心に組織  
 ・旧遷喬尋常小学校なつかしの学校給食の運営  
 ・木造校舎を活用したまちづくり

**備前市「食の人財」発信プロジェクト**  
 食にかかわる仕事や活動をしている人々を紹介する冊子の制作  
 ・栄養学科と情報システム工学科の学生、教員  
 ・食にかかわる仕事や活動を通じて地域の活性化等に貢献している人々を学生が取材  
 ・活動を備前市民、市民以外にも広報

# 14 域学連携活動に関する準備状況

## 安心安全な地域づくりに向けて(その1)

**地域消防力の課題**  
 次世代を担う消防力の低下  
 ・消防団員数の減少  
 ・消防団員の高齢化

**大学での消防・防災活動**  
 ・サークル結成・活動  
 ・ボランティア活動

**岡山県大学生消防応援隊**  
 次世代を担う大学生の  
 ・地域の消防に関する理解促進  
 ・若者の消防に対する理解促進

OPU消防応援隊



**活動状況(予定を含む)**  
 7月: 結団式  
 8月: 岡山県総合防災訓練  
 11月: 防災士養成研修 総社市防災訓練 女性・若手研修会  
 12月: 救命講習会  
 1月: ワークショップ  
 2月: 活動発表

# 15 域学連携活動に関する準備状況

## 安心安全な地域づくりに向けて(その2)

【栄養学科公衆栄養学研究室の学生が参加】

**備前市食育推進専門委員会への参加(H26から)**  
 テーマ:  
 「語り継ぎたい食べつぎたい備前の食  
 ～地産地消をすすめるために～」

・「美膳の伝道師 備男備女集めました」の取材を通じた気づきや学びを紹介

**備前市栄養教室への参加(H26から)**  
 ・地産地消と郷土料理の普及をねらいとした「野菜たっぷりベジ活メニュー」の調理実習

**備前市「かんたん、おいしいお魚クッキング」開催**  
 ・魚食の普及と備前市産の魚の摂取の推進



# 16 産学連携

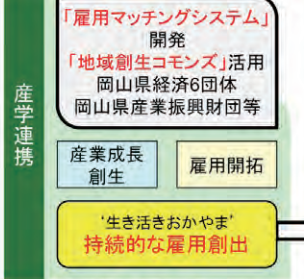


## 産学連携

(1) 「雇用マッチングシステム」の開発  
 ・学生ポートフォリオ ⇄ 企業ポートレート  
 ・地域企業の魅力発信

(2) 「長期インターンシップ」の実施  
 ・大学と企業による支援体制の構築  
 ・地域定着への意識向上促進

(3) 産業ニーズと研究シーズのマッチング  
 ・技術講習会等への学生参加  
 ・技術力向上支援(デジタルエンジニアリング等)  
 ・商品開発力向上支援  
 ・情報発信力支援(ヘルスケア、観光デザイン等)



**地域定着率 10%向上**  
 「地域創生コモンズ」を活用して、COC+参加校と地域企業の協働プラットフォームとする。

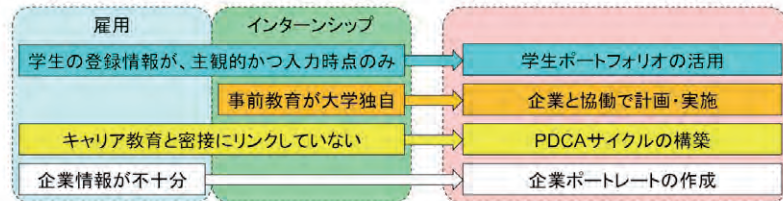
経済基盤の確立

17

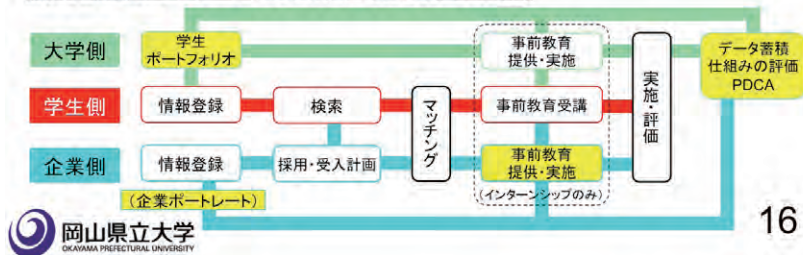
## 雇用・インターンシップマッチングシステム

従来のマッチングシステムの主な課題

解決に向けたシステムの開発方針



開発する雇用・インターンシップマッチングシステムの概念



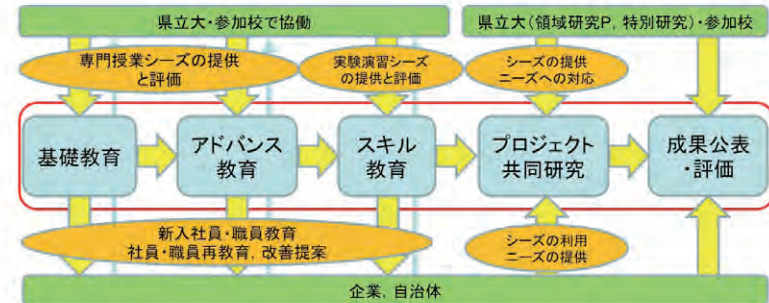
岡山県立大学  
OKAYAMA PREFECTURAL UNIVERSITY

16

18

## 産業振興(産業成長・人材育成)

- ☆人材育成・技術力向上
  - ✓デジタルエンジニアリング: シミュレーション技術の普及, 新材料, バイオマス, 製造効率向上
  - ✓観光デザイン: 地域データの統合利用技術, 歴史遺産の観光化
  - ✓ヘルスケア: 米粉麺の普及と商品化, ヘルスケア産業の創生・成長
- ☆人材育成・情報発信力向上
  - ✓地元ブランド産品創製, ✓広告デザイン, ✓食育等地域データのオープン化

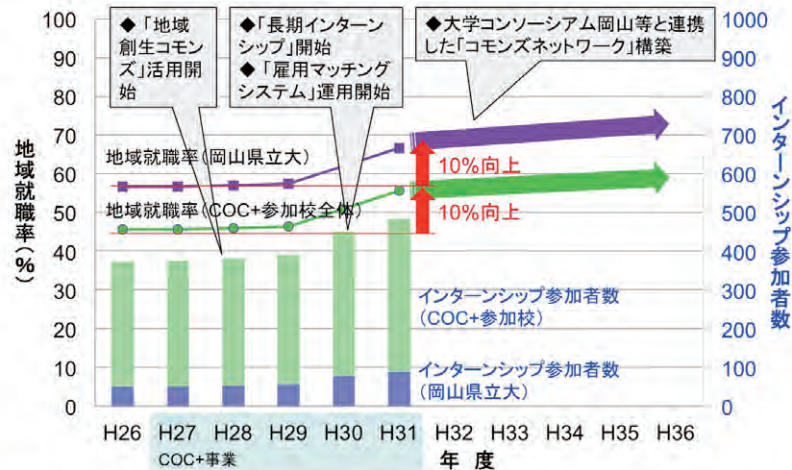


岡山県立大学  
OKAYAMA PREFECTURAL UNIVERSITY

17

19

## 持続的な地域定着を目指して



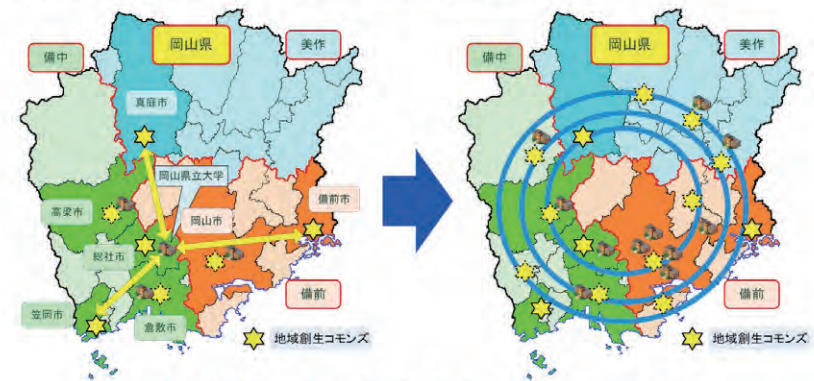
岡山県立大学  
OKAYAMA PREFECTURAL UNIVERSITY

18

20

## 持続的な地域定着を目指して

### 地域創生コモンズのcommonsネットへの拡大



### 地域創生コモンズのネットワーク化

岡山県立大学  
OKAYAMA PREFECTURAL UNIVERSITY

19



## (2) 学生による取組みについて

### ① アデレイド・スタディツアー（異文化圏における専門分野の学び）

本学では教育のグローバル化が緒に就いたばかりであり、留学生受入・派遣いずれも実績としては少ない状況にある。平成 26 年 10 月に開設した国際交流センターを介して専門分野における異文化交流にいち早く取組んでいる保健福祉学部のアデレイド・スタディツアー。平成 26 年度にその先陣として自主参加した栄養学科学学生の取組を学生自ら紹介し、今後に向けた成果等について報告を行う。

### ② 総社市インターンシップ（地域の学びと提言活動）

本学との連携交流協定に基づき平成 21 年度に開講された総社市インターンシップ。授業科目（夏季集中）ではあるが、平成 23 年度からは単なる市役所業務の体験に留まらず、その最終段階における成果発表において、学生から行政に向けた具体的な「政策提言」を行う取組が追加された。その結果、優秀な提言のなかからこれまで市の施策に活かされたケースも 4 件ある。平成 27 年度の成果について履修した学生の代表により報告を行う。

### ③ AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア（福祉の心の学び 1）

「人間尊重と福祉の増進」を建学理念とする本学と AMDA との連携交流協定に基づく、平成 27 年 9 月実施の東日本大震災復興支援ボランティア参加報告である。天災に殆ど見舞われることのない岡山県にあって、学生における様々な被災地ボランティア活動は、刮目すべきことの連続であったに違いない。日常と非常をともに体験することにより、非常時における福祉の精神の発揮ないしは涵養について、参加学生が学び取った内容について報告を行う。

### ④ チュッピー広場（福祉の心の学び 2）

本学の保健福祉推進センターが企画・主催する県大そうじゃ子育てカレッジにおいて、毎年学生が参加するチュッピー広場。平成 27 年 8 月には「OPU 子どものためのアートパフォーマンス」と題して未就学児と保護者 40 組を対象として劇・うた・ダンスなどを披露した。その成果と正課学修へのフィードバックについて報告を行う。

# ① アデレード・スタディツアー（異文化圏における専門分野の学び）

① 南オーストラリア州「保健福祉スタディツアー」

- ▶ 目的 外国語の習得や専門分野に関連した研修体験を通じて異文化への理解や多文化共存の重要性について学ぶ  
終了後、専門職教育における学びのモチベーションの向上につなげる
- ▶ 期間 平成27年2月27日（金）～3月9日（月）
- ▶ 参加者 10名
- ▶ 内容 TAFE SAでの保健福祉に関する専門研修  
(TAFE SA：南オーストラリア州立の職業教育・訓練機関)  
小学校・高校の訪問・ホームステイ・市内視察など

平成27年1月 2月 3月 4月 … 11月

語学の勉強（スカイプ英語、英語村）  
国際交流センター活用

食育活動など準備（小学校・高校・施設（研修先の担当者、英語村））

保健福祉スタディツアー

学内での報告会

岡山市内の小学校で食育活動

② スケジュール

日付	行程	宿泊先
① 2月27日（金）	岡山駅→関西空港	空港内ホテル
② 2月28日（土）	関西空港→香港空港	機中泊
③ 3月1日（日）	アデレード空港着 ホストファミリー宅へ移動	ホームステイ
④ 3月2日（月）	TAFE SAでの研修① オリエンテーション、 保健制度の実際、職場の健康と安全	ホームステイ
⑤ 3月3日（火）	TAFE SAでの研修② セントラルマーケット 高齢者福祉施設（The House Of St Hilariion）実践①	ホームステイ
⑥ 3月4日（水）	TAFE SAでの研修③ 高齢者向け宅配弁当製造会社 在宅自立支援センター、専門英語	ホームステイ
⑦ 3月5日（木）	高校訪問（Norwood Morialta High School）実践②	ホームステイ
⑧ 3月6日（金）	小学校訪問（Coromavdal Valley Primary School）実践③	ホームステイ
⑨ 3月7日（土）	ホームステイ先の家族との交流	ホームステイ
⑩ 3月8日（日）	アデレード空港→香港空港→関西空港	空港内ホテル
⑪ 3月9日（月）	関西空港→岡山駅	

③ TAFE SA

食育活動など準備（小学校・高校・施設（研修先の担当者、英語村））

保健福祉スタディツアー

学内での報告会

岡山市内の小学校で食育活動

④ 高齢者施設の見学

高齢者福祉施設（The House Of St Hilariion）実践①

高齢者向け宅配弁当製造会社  
在宅自立支援センター、専門英語

高校訪問（Norwood Morialta High School）実践②

小学校訪問（Coromavdal Valley Primary School）実践③

ホームステイ先の家族との交流

⑤

## TAFE SAでの学び

南オーストラリア州における福祉制度や在宅介護を支援するシステム、移民文化に配慮した高齢者福祉施設の見学などを通じて移民の多い国や個人の尊厳を重視した福祉のあり方などを学んだ。

マーケット見学やホームステイ等を通じて、オーストラリアの抱える健康問題と食生活の実際を学んだ。



外国語のスキルの向上  
専門分野を通じての異文化理解の促進

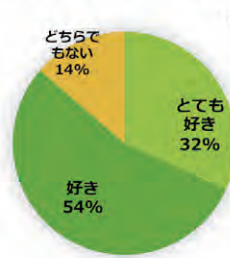
⑥



小学校での食育活動

⑦

【授業をどう評価しますか？（7年生）】



《感想》

- 楽しかった、面白かった
- 日本の大学生たちと会えてよかった
- 外国からきた自分たちと違う人たちの交流が良かった
- ゲームができたから
- 折り紙がもらえたから
- 日本の食べ物の名前を勉強できた
- 大学生の英語は上手だった
- ハンカチ落としは楽しかったけど、ピンゴは楽しなかった

【この授業を通して、または授業の後で…】

健康な食事が分かった	15名
赤・オレンジ・緑の3つの違う食べ物を意識するようになった	14名
もっと日本の言語に興味を持った	4名
もっと日本の言語に自信がついた	0名
もっと日本の文化に興味を持った	8名
前よりも注意して食べ物を選ぶようになった	7名
何も学ばなかった	0名

小学校での評価

⑧

## 小学校での学び

学校の概要の説明を受けるとともに、LunchTimeを共にすることで豪州の子供たちの食生活の実態に触れた。また現在日本ではまだあまり取り入れられていない国際バカロレア IB 教育プログラムや豪州での生活等について日本語教諭の山本氏から講話をうけ、更に全校集会での IB 活動に関する児童の成果報告発表を視察することで、日本の教育制度や教育方法と比較し多様な学び方の可能性に気付く機会となった。更に2つのクラスで日本語の授業時間にフードガイドに基づく食育の活動を実施し、児童と交流を図った。



食育活動においてこれまで身につけた  
栄養学の専門知識やスキルの活用

⑨

日本語の授業



①お箸の使い方



②お箸のタブーな使い方



③お箸を使った豆つかみゲーム



## 高校での食育活動

⑩

### 【目的】

「保健福祉スタディツアー」に参加した学生が、帰国後学びを活かす場を提供し、更に同じ学科の同級生や次に参加を予定している下級生とともに実践活動を行うことで、グローバルな食育活動の推進を図ること。



## 石井小での食育活動

⑪

## 高校での学び

学校の概要の説明を受けるとともに休憩時間の校内の視察や日本語教諭芳賀氏の多国籍からの留学生と共に学ぶ豪州の教育制度や豪州での生活体験の講話から多文化共生の実態やグローバルに活躍することの可能性を理解した。

また日本語クラスにおいては「はし」をテーマに日本文化の紹介をおこなう活動を実施し、生徒と交流を図った。



食育活動においてこれまで身につけた  
栄養学の専門知識やスキルの活用

⑫

## 研修全体でのまとめ

### ・語学力の育成について

語学に対する考え方が変わった参加者も多く、コミュニケーションツールの一つとしての認識を新たに持つきっかけとなった。

### ・異文化交流・理解について

オーストラリアの中でも原住民アボリジニーへの尊敬の念が広がっている事や、日本の文化との違いにも触れ、多方面からの理解につながった。また、異文化に触れることで、自国の文化にも興味を抱くきっかけとなった。

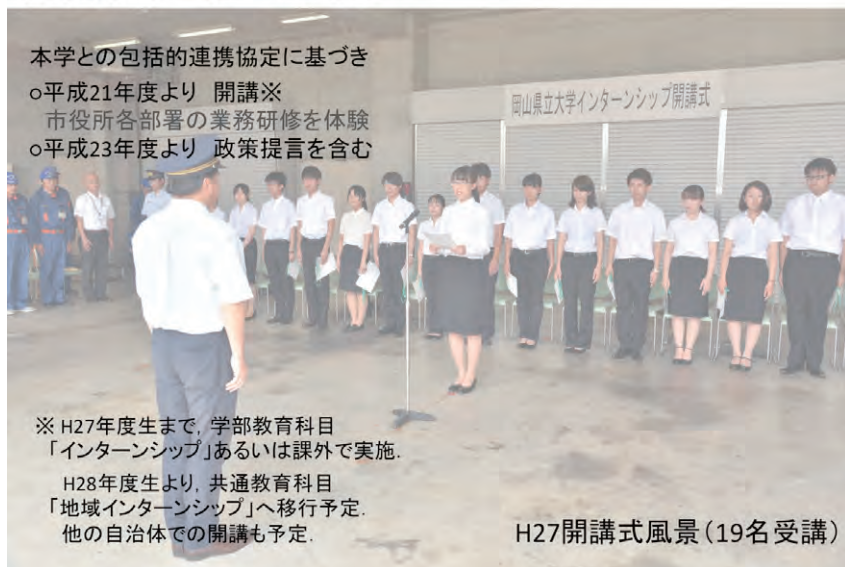
### ・研修を通じて

「今回の経験を今後どう生かしていくかについて」、各参加者の専門職である管理栄養士・栄養教諭・看護師等における深い理解へとつながり、今後の学生生活へのモチベーションに寄与していくことが期待される。



## ② 総社市インターンシップ（地域の学びと提言活動）

### ① 総社市インターンシップ



本学との包括的連携協定に基づき  
 ○平成21年度より 開講※  
 市役所各部署の業務研修を体験  
 ○平成23年度より 政策提言を含む

※ H27年度生まで、学部教育科目  
 「インターンシップ」あるいは課外で実施。  
 H28年度生より、共通教育科目  
 「地域インターンシップ」へ移行予定。  
 他の自治体での開講も予定。

H27開講式風景（19名受講）

### ② 政策提言（26年度までの優秀賞及び実行プラン）

年度	政策提言テーマ	概要	実行した政策	学部・学科
23	安心・安全な総社市のための防災計画	NPO法人等を町内会・市・消防団・学生で構成し、防災会議やセミナーを定期的に開催することで、継続的な取り組みとともに意識の高揚を目指す。	防災カルタの作成	デザイン学部生
23	高齢化を踏まえた多文化共生社会	日本語教室で学ぶテーマに介護を取り上げたり、外国人向け葬祭・介護・医療などについてのハンドブック等を作成し、制度理解を深めてもらう。	多言語医療ガイドブックの作成	デザイン学部生
23	地元の食材に親しみを持つ人を育てる	小・中学校に通う子ども達が市内産の食材を使って調理実習を行ったりして、もっと地元の食材に親しみをもってもらう。		保健福祉学部生
24	食で繋がる総社市	地・食への認知度を向上させるため、総社市が地産地消に対して積極的であることをアピールしていく。	地・食べ市場の展開（ニシナ・プラザ・マルナカなど）	情報工学部生
24	農業を通して総社市をアピールする	中・高・大学生を対象にした食・農体験の実施 県立大学祭内で総社産の作物や野菜の販売を行う朝市の実施		情報工学部生
25	総社市早見カレンダー	総社市の月めくりカレンダーを作成し、入学生に配布したり、ホームページにカレンダーを掲示するなどして、総社市の特産品・イベントの認知度の向上を図る。		情報工学部生
26	総社市に住む人が気軽に安心して外出できるような街づくり	障がい者やハンディキャップを抱えた人たちにとって一般的なものより詳細な情報が載っている「総社市バリアフリーマップ」は有効性があると考える。この冊子を入手するには市役所へ訪れる必要がある。これを改善するために、冊子に加えて、市のホームページでも情報を公開する政策を実行する。	ホームページで公開	デザイン学部生

### ③ ●環境課の取り組み

業務研修

#### 補助金等

ごみ減量化推進団体報奨金交付制度（廃品回収）等

#### 環境保全

農薬使用について、大気汚染防止推進月間 等

#### 自然保護・環境学習

自然保護への取り組み、鬼城山外来植物一掃大行動 等

#### ごみ・し尿・リサイクル

雑がみリサイクル、環境出前スクール 等

#### 省エネルギー・新エネルギー

住宅用太陽光発電システム設置費補助金、クールビズ 等

#### 犬猫など

犬猫の飼育登記、市道の死骸回収 等

#### 斎場・墓地

斎場・墓地の管理

### ●インターンシップでの活動

環境学習の一つである「自然学校」の準備及び同行

### ④ 自然学校における自然学習及び自活行為の拡充について

政策提言

#### 現状

基本的な食事の準備は職員が行っている。

#### 改善案

食事の準備を児童に任せ、職員はこれを見守る。

#### 見込まれる効用

- ・達成感を味わう
- ・児童間の連帯感を促す
- ・自立心を育て、  
自発的に考えることを学ぶ
- ・家庭でのお手伝いにつながる



⑤

まとめ

## インターンシップで学んだこと

- ・市役所が安心・安全な暮らしを支えているということ。
- ・個性と状況に即した関わり方が必要であること。



⑥

業務研修

## ●秘書室

- ・市長随行(大卒新規就職面接会, 記者会見, 第5回総社観光大学入学式, ミネストローネ販売イベントほか)
- ・市長と各課の協議に同席(政策調整課行政報告, 財政課玄関改修, 秘書室日程ほか)
- ・市長が出席する会議への同席(庁議, 宮崎県国保連合会国保事業視察講演, 総社観光大学市長講義ほか)

## ●地域応援課

- ・道路パトロール(欠陥がないかなど)
- ・道路の舗装
- ・欠陥のある側溝蓋交換
- ・倒木の伐採, 撤去

⑦

政策提言

### 「世界の命を救う」連携協定

・総社市 ・AMDA ・岡山県立大学

【目的】

災害支援, 地域振興, 教育, 人材育成, 福祉事業の分野で連携協力

### 大規模災害支援に関する条例

【目的】

被災地の応急対策と災害復旧, 市民の共助意識の高揚  
「支援実行者」→総社市  
+被災地支援に関する協定を締結している団体(連携可能)

南海トラフ地震

AMDA

総社市

岡山県立大学  
【第三次後方支援拠点】

支援物資の  
仕分けなど

県大生による  
プロジェクトリーダー

連携

ボランティアの呼びかけ  
災害教育・啓発など

県大生

ボランティア・募金活動  
等への参加

⑧

まとめ

## インターンシップで学んだこと

- ・秘書室では市長の随行が主な活動であり, 市長の講義や講演に同席させていただくことにより総社市の行っている政策の背景や成果を詳しく知ることができた。それだけでなく, 実行に移すことが困難な政策に対し前向きに勇気をもってチャレンジする総社市の姿勢を学んだ。
- ・地域応援課では, 道路の穴うめや側溝蓋の取りかえを職員のみで行うのは大変でしたが, やりがいのある仕事であり達成感をその場で得ることができた。自分の知らない所で市の役員の方がバックアップしてくださっていることがとてもありがたいことだと思った。
- ・本学と総社市との連携交流協定によるインターンシップは行政と密接に関わることができる良い機会であるのでこれからもこの協定を生かして積極的に総社市インターンシップに参加してほしいです。

⑨

業務研修

### ● 市政情報課

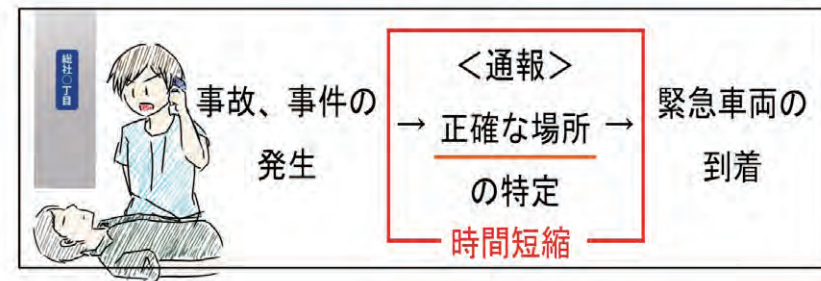
- 取材随行
- 公式SNSの投稿原稿作成
- データの加工



⑩

政策提言

### ● 住所表記板の設置



⑪

まとめ

## インターンシップで学んだこと

- 大学で学んできたことが活かせ、身につけていることが実感できた。
- 将来像を具体的に頭に描くことができるようになった。
- 反省点として受け身な姿勢で仕事をしていた。
- 苦手な分野に対しても前向きな姿勢で取り組む必要。

⑫

修了証授与風景



ご清聴ありがとうございました。

### ③ AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア（福祉の心の学び1）



#### ② 趣旨・経緯

- 岡山経済学友会が主催する東日本大震災復興ボランティアに大学コンソーシアムの枠組みで平成23年度から毎年、岡山県立大学の学生が参加。
- 一方、大学ごとの派遣人数の割り当てにより、希望する学生が全員は参加できない状況。

岡山県立大学

災害派遣  
地域貢献  
教育  
人材育成

総社市 福祉

▶▶▶▶

平成27年度からAMDAの協力のもと地域貢献とキャリア形成を目的とした本学独自の東日本大震災復興支援ボランティア活動を開催

連携協定の締結[平成25年度]

AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

#### ③ スケジュール

実施日：2015年9月12日（土）～16日（水）  
参加者：13名

9月15日 大槌町 美化活動

9月14日 大槌町 町内視察・研修

9月14日 陸前高田市、大船渡市、釜石市 奇跡の一本松 など車中視察

9月14日 気仙沼市 市内視察

9月13日 南三陸町 畑作業・美化活動・町内視察・キャリア研修

9月16日 岡山到着

9月12日 岡山出発

AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

#### ④ 畑作業

宮城県南三陸町 「南三陸農工房」にて畑作業

AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

⑤

### 美化活動

詳細 開催 申し込み 終了

南三陸町 「さんさん商店街」にて美化活動  
大槌町 大槌稻荷神社にて清掃活動



ふれあい

恩返し

AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

⑥

### 視察

開催 申し込み 終了

南三陸町 ◇旧戸倉小学校 ◇防災対策庁舎  
気仙沼市 ◇鎮魂之碑



心の傷

家族

伝えること

AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

⑦

### 視察

開催 申し込み 終了

気仙沼市 ◇鎮魂之碑 ◇展望台から  
大槌町 ◇旧大槌町役場 ◇高台から



心の被災者

絆

まだまだ

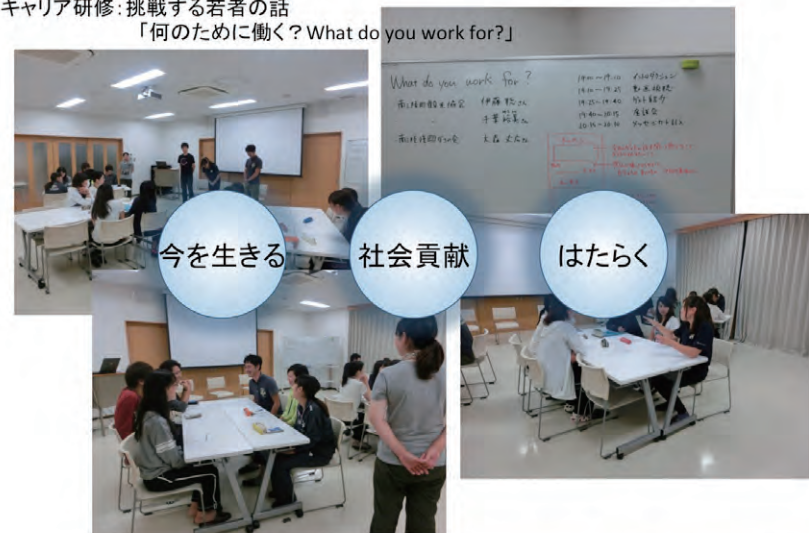
AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

⑧

### 研修

申し込み 終了

キャリア研修: 挑戦する若者の話  
「何のために働く? What do you work for?」



今を生きる

社会貢献

はたらく

AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

⑨

研修

社会福祉法人堤福祉社会勤務の方  
「東日本大震災の渦中、社会福祉法人堤福祉社会がどう機能し、職員はどう動いたか」  
大槌復興推進隊勤務の方(地域おこし担当)  
「地域おこしの業務と課題」



AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

⑩

とおして..



AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

⑪

そして..

被災地の現状を 被災者の様子を 多くの人に伝えたい



ポスターを作成, 食堂に掲示



後援会だよりにて体験談を掲載  
最後に

- ・被災地の現状を自らの目で直接見ること
- ・防災意識の強化・共有
- ・ボランティアのかたちの変容

AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

⑫



宮城県南三陸町「さんさん商店街」にて  
AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

## ④ チュッピー広場（福祉の心の学び2）

①

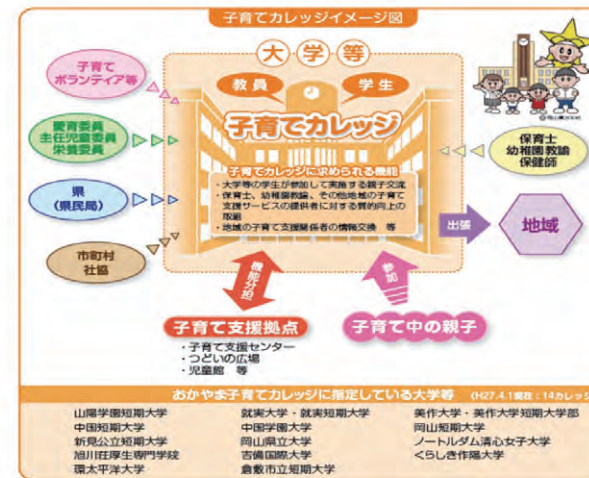


### チュッピー広場

保健福祉学科 子ども学専攻3年

1

②



2

③

### 県大そうじゃ子育てカレッジ

岡山県立大学がもつ専門知識や施設などを活用し、「チュッピー広場」をはじめ、子育て支援者向けの研修会や情報交換会などの開催を含めた事業を実施

#### 【内容】

- 〔1〕 大学の学生が参加して実施する親子交流など
- 〔2〕 地域の子育て支援サービスの提供者に対する質的向上の取り組み
- 〔3〕 子育てや子育て支援に関する相談の実施
- 〔4〕 子育てや子育て支援に関する情報発信
- 〔5〕 子育て支援に関するボランティア・NPO等の活動への支援
- 〔6〕 地域の子育て支援関係者の情報交換
- 〔7〕 その他調査事業など

3

④

### チュッピー広場の概要

- ▶ 毎週1回、学生も参加する親子交流広場事業

民・官・学の協働事業

(平成22年3月30日設立)

- ▶ 平成26年度の実績
- 開催日数 59日
- 参加者数 615組

- ▶ 特長
- 学生の参画・協働授業・フリープログラム



4

⑤

### 学生の参画

- ▶ 1年生  
12月 親子で楽しむクリスマス会  
(保育内容 I 「人間関係」)
- ▶ 2年生  
6月 おはなしのかい (国語)  
8月 子どものためのアートパフォーマンス  
(保育内容 I 「音楽表現A」)
- ▶ 3年生  
8月 子どものためのアートパフォーマンス (体育 I)



5

⑥

### 子どものためのアートパフォーマンス

- ▶ 2年生 合奏
- ▶ 3年生 ダンス
- ▶ 4年生 劇



6

⑦

### 親子で楽しむクリスマス会

- ▶ 手遊び、歌、パネルシアター、合奏
- ▶ サンタクロースに変装した学生から  
手作りおもちゃをプレゼント!



7



⑧

### おはなしのかい

- ▶ 手遊び、絵本、紙芝居



8



⑨

## チュッピー広場を通しての学び

- ▶ 子どもの遊びの興味や発達を知ることができる
- ▶ 子どもだけでなく保護者との交流機会となる
- ▶ 子育て支援拠点の支援者の関わり方を観察を通して学ぶことができる
- ▶ 協働授業を通して手遊び歌や絵本などの教材研究が可能となる
- ▶ 保育者に求められる実践力の醸成がはかれる

9

⑩

## 他学部・他科学生の参画

- ▶ 保健福祉学部 栄養学科  
公衆栄養学実習Ⅰ  
子育て支援事業の現状と母子の実態について学ぶ
- ▶ デザイン学部  
学生相談室外壁面の着彩への親子参加



10

⑪

## その他の取り組み

- ▶ 子育て支援関係者たちへの研修  
保育ステップアップ講座、子どもと保育  
研究会、子育て支援ネットワーク研修会
- ▶ 親子で楽しむ音楽会
- ▶ 保護者対象のワークショップ  
スヌーズレン歌声広場、子育て中の  
ママのためのダンス、ノーバディーズ  
パーフェクト



11

⑫

## 今後の課題

- ▶ チュッピー広場と授業時間の重複があり参加機会が限定される
- ▶ チュッピー広場以外の事業への学生の積極的参加
- ▶ チュッピー広場の取組の周知を学内外にはかる
- ▶ 他大学のカレッジとの情報交換

12

岡山県立大学ワークショップ 別冊資料

発行日 平成 28 年 2 月 1 日

発行者 公立大学法人岡山県立大学 評価委員会